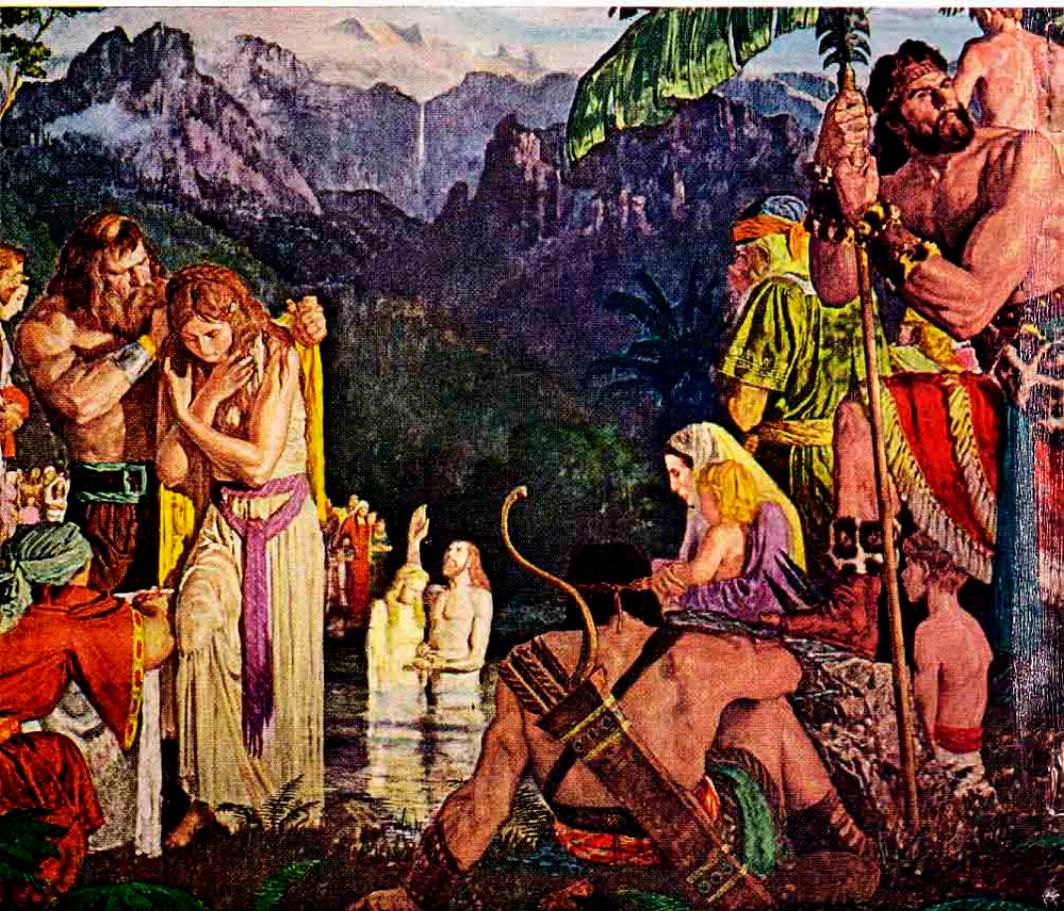


聖徒の道

一九五八年三月十七日第三種郵便物
認可(毎月一回一日発行)
第七巻第五号 一九六三年五月一日
発行

SEITO-NO-MICHI



5

1963

末日聖徒イエス・キリスト教会



4月16日 ウェンデル・B・メンデンホール教会建築部長来日、
吉祥寺 西支部現場を視察された。



去る1963年3月30日 沖縄那覇支部で、那覇支部長 Chojiro
Oshiro 兄弟と Eiko Koja 姉妹との結婚式が挙行されました。
写真は「花嫁への贈物の雨」bridal shower を受けるときの
花嫁と扶助協会の会員たち。

聖徒の道

一九六三年五月号

第五七号巻



↑ 3月23日 東中央地方部MIA
大会の前に開かれた親睦会
新潟・横浜・東京南支部

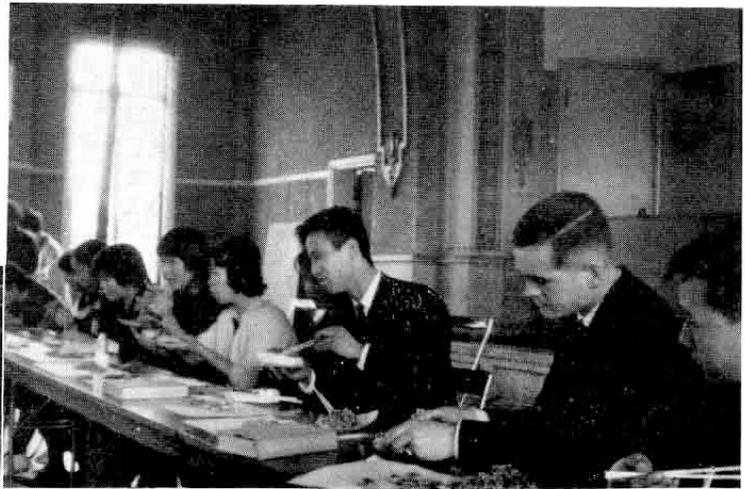
← 親睦会・フォークダンス



← ゲーム



← 東京南支部
3月21日
奥多摩に
ハイキング



↑ 金沢支部
扶助協会創立121年
祝賀パーティー



← 雪害の見舞品をいただき大喜びの会員たち

In this Issue

A Prophet's Voice: On this Mother's Day	President David O. McKay	272
President's Message.....	President Dwayne N. Andersen	275
A History of the Priesthood.....	Tatsui Sato	279
Lord's wonderful deciples.	Ryotaro Kanzaki	289
Welcome President Mendenhall.....	Masao Watabe	283
To share the Gospel	Sachiko Tagawa	296
Report on the East Central Dist. Conference		286
Aaronic Priesthood: Branch Teaching Lesson (for May.)		305
Church Articles		306
Genealogy Guide (for June)		
Sunday School Guide for J.S.S. (for June)		
Sundy School Guide (for June)		
Hymns for Exercise (for June)		
MIA Leader (for June)		
Mission Mother's Message		316
Relief Society Lessons		319
Literature—Visiting Teacher Message		
Mission Headquarters News		330
Instructions from Mission clerk.....		278
Branch News		298
GOSPEL IN ENGLISH.....	Sister Maren Mouritsen	338



目次 聖徒の道 一九六三年五月号

予言者のことば

母の日によせて

大管長 デビッド・O・マッケイ……272

伝道部長メッセージ

ダワエン・N・アンダーセン……275

神権の歴史

佐藤 竜猪……279

主のすばらしき弟子(下)

神崎 良太郎……289

教会建築部長

メンデン・ホール兄弟を迎えて

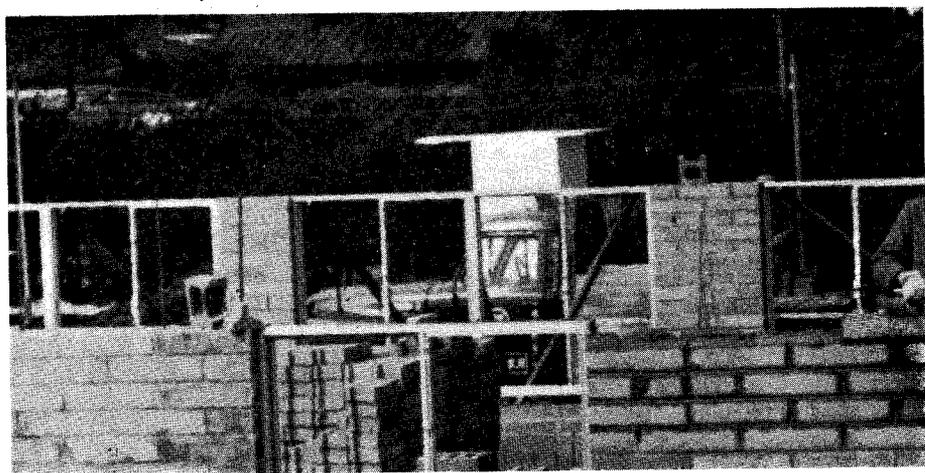
渡部 正雄……283

伝道するため

田川 幸子……296

東中央地方部大会報告

渡部 正雄……286



アロン神権ブランチ・ティーチング・レッスン(五月用).....	305
系図の道しるべ(六月用).....	306
子供の日曜学校ガイド(六月用).....	307
日曜学校ガイド(六月用).....	309
練習の讚美歌(六月用).....	310
M I A リーダー(六月用).....	312

伝道部扶助協会長メッセージ.....	ペギー・ヒュイシ・アンダーセン	316
ジョセフ・スミスの生涯(7)	<small>(扶助協会専用レッスン)</small>	319
扶助協会レッスン.....		326

伝道部書記指示

伝道部書記
 ファイルモア長老..... 278

伝道本部だより

..... 330

支部だより

..... 298

英会話テキスト

..... 338



予言者のことば

母の日によせて

大管長 デビッド・O・マッケイ

いま、この「母の日」を迎えるにあたって、親しく母に自分の愛をあらわして感謝をすることのできる人は幸福であるが、すでに母を失なっているためにこうした機会のない人たちもいる。しかし、母がいなくても、その感化は長年にわたって私たちからなくなるものではない。

まだ母親が健在である人々にとっては、いまこそ、その人々が天使のような自分の母を思うときに一生を通じてきえることのない心のあたたまる出来事と、心の奥に大切にしまっておくことのできる孝養とをもってその生活を満すべき時である。これは一年のうち「母の日」だけにすることではなくて、母に対し孝養をつくし愛をあらわすはずである毎日、一日も欠かさず為さなくてはならないことである。

母はその子がおとなになってとり入れる一生の収穫のもとになるたねを大部分その子がまだ幼いころに蒔きつけておいた。

この世において母親になるほど貴い召しはない。本当に立派



な母であることは、あらゆる芸術のうち最も美しい芸術でありあらゆる職のうち最も偉大な職である。傑作を画くことのできる女性、もしくは何百万という人を感動させる書物を著すことのできる女性は、人類の称賛と讃美とに値する女性である。

しかし、健康で美しい息子や娘たちを生んでこれを立派に育てあげ、その不滅の精神が長い長い年月にわたって影響をおよぼす女性は、傑作といわれた画の色があせてしまった後も、また多くの書物や地位がほろびてしまった後も、人類最高の名誉を保つてかわることがないにちがいない。

● 母親は、人生において善悪いずれにせよ大きな影響を与える力をもっている。母親の姿かたちは、白紙のようなおきな児のころに一番さきに深くしみこむ像である。おきな児のころに一番さきに安全感をおこさせるのは母親が与える保護である。また一番さきに愛情を実感させるのは母親が与える接吻である。またこの世に愛のあることを一番さきに確信させるのは母親の同情と優しさである。

おきな児が成長すると、父親が母親にとつてかわって子供たちのころの中に模範者としての座を占める時がくる。また子供たちがおとなの特色をあらわそうと大いに望んでいる成長期には、子供たちは母親によって生じた一層やさしい柔和な美德よりも男らしい性質の方へ向いて行くように見える。それは本当である。しかしながら、まだおさないうちに母親がうえつけた、常に正しい方向を示し常に悪にさそわれないように抑える力は、花の一つ一つに香りがしっかりついていると同じようにはっきりと、子供たちが大きくなってもなくなくなることなくその

考えと記憶の中にしみこんでいるにちがいない。

激しやすい青年時代の生活で、子供のころにうえつけられてのこっているこの力が、誘惑の時に身を守ったことがある実例は一度や二度ではない。この誘惑におち入らないように抑えつける力は、国法が犯罪を抑え、社会からの追放が社会秩序を破壊する悪を抑え、神の誠命が罪におち入るのを抑える力よりはるかに強い。しかもそれは幼いころに母親が与えた影響である。青年時代の血気にはやって、若者たちはこの力の一部もしくは全部を無視することがあるかも知れない。そして、彼の熱した血の命ずるままに行なうかも知れない。しかし、悪におち入るか入らないかの重大な瞬間に、母親がどれほど自分を信じていたか、もしも自分が母親の信頼を裏切ったならどれくらい母親が悲しむかという心のひらめきは、彼の一生を台なしにしてしまったかも知れない耽溺を避ける力を彼に与えている。

われわれは、あらゆる女性に名誉ある高い地位を与えなくてはならない。この高い尊厳をいつも保ちまたそれに値するため、あらゆる女性は、それまでとおなじように長い将来にわたって人類に尊敬と愛とを要求する美德を身につけていなくてはならない。これらの美德が何であるかを知らうとするならば、誰でも自分の母のことを考えてみるがよい。自分の母をまぶたに浮かべるとき誰でも「美しく貞淑な女性はまことに神の御手に成る完全なもの」であることに同意するにちがいない。

女は人を貴くもするし墮落もさせる力をもっている。嬰兒に生命を与える者、子供の時から青年の時代にかけて徐々ではあるがたえず性格に強い影響を与えている者、一人前の男に正し

い考えを吹きこんで高貴な大望をもたせもするし誘惑とわなに
おとし入れて失敗と墮落に終わらせる者、家庭をこの上ない喜
びのある天国にもするし不満の巢くつにもする者、またその最
善の状態では最も楽しい希望と最もすぐれた幸福とを人生に与
える者、それが女である。

母性とはぎせいの別名である。自分で自分をどうすることも
できない、ちっばけな嬰兒が枕べに置かれた時から、母親は毎
日毎日、否一時間毎に自分の命をこの愛する者に与えている。
嬰兒は最初母親の胸から力を受けるが、いつも母親の心から
(愛によって)力を受けている、とは適切なことばである。母
親はその子が嬰兒からおおきな児となり子供となり若者となるま
で、否その娘が自分とおなじように母となり、その息子が父と
なるまで一刻もかわることなく長い年月にわたって、自分の時
間も楽しみも慰安も、必要とした休息も娯楽も、また必要なら
ば健康も生命さえも子供たちのために親切と愛をつくしてぎせ
いになっている。母親の愛の力と美しさと雄々しさを言いあ
らわすことのできることははない。

母性の美しさも偉大さも、ともに母がその子供のために自分
をぎせいにしてつくすところにある。母はほかのものを一層幸
福にするためにいつも自分の生命のうちから何かを与えてい
る。これこそ母性をけだかいものにするキリストのような美德
である。

私とおなじ道にいそしむ人々よ。いつも幸福な記憶としての
こるような行ないをしなさい。とくに、あなた方の母にいろい
ろ親切なことをしたという幸福な記憶がのこるようなことを。

忘れたとかおろそかにしたとかいう記憶がすくないほど、あな
た方は幸福になれるにちがいない。

それであるから私たちは、「母の日」に一日だけ母をほめた
たえるだけでなく、それをもとにしてまず第一に母親それから
立派な母親になりたい希望をもっているすべての女性を尊敬す
る決意と能力とを増すようにしなければならぬではないか。



伝道部長メッセージ

「教会は求む、手も心も、なすべきわざあり、車を押せよ。押せ肩の力もて、うたいて義務を果たせ。人みなたゆまず、車を押せよ」(讚美歌第百七十二)

この讚美歌のことばは、この末日の時代に私たちが喜んでたらく手も心も必要としていることをよくあらわしています。今日ほど神の王国が急速に発展している時は世界歴史のうちでまだ一度もありませんでした。今日ほど大きな必要のあった時は一度もなく、また今日ほど仕事の酬われる時は一度もありませんでした。今日世界において善を為す最大の力、すなわちイエス・キリストの福音、とりもなおさず神の権威と権能の一部分となることはまことに私共の感激であります。

この大きな働らきの具体的な証拠は、神にささげられた祈りの家



伝道部長

ダワエン・N・アンダーセン

である教会堂の形で東洋にあらわれはじめています。この家においてこそ教会員が真に集まりをして教会の完全なプログラムを遂行することができるのであります。主はこれらの建物を、日本と沖繩のすべての支部が建てることのできるようになさいました。もちろん時間と金銭のかたちで努力を必要とするにちがいありませんが、それも支部の会員たちにとって負担が重すぎるようなことはありません。

先月ウェンデル・メンデンホール兄弟姉妹とハワード・ダン兄弟姉妹が日本における建築計画の視察をされましたとき、この方々にお逢いできたのはまことに格別の特権でありました。メンデンホール兄弟は教会の建築計画の総監督であります。主があなたがたに期待しておいでになりますことがあなたがたにわかるよう、そのとき

私どもが得た知識のうちいくつかをお知らせしたいと思います。

土地。 支部は土地の価格の二十パーセントを払うはずであり、もしも土地の価格が五万ドル以上になるときは、教会はその超過分の百パーセントを払います。ということは、支部の支払額は最高一万ドルをこすことはないということであり、ます。

建物。 支部は建物の価格の二十パーセントを払い、教会は八十パーセントを払います。「勤労奉仕宣教師プログラム」と支部会員の働らきとをもつてすれば、この支部負担である二十パーセントはさうさなく払うことができます。また私たちの勤労をもって、土地の価格の支払いの一部にあてることもできます。どうしてこれができるか次に説明しましょう。

建築をする際の資材と労力との比は、世界中どこでも資材が六十で労力が四十であります。ところが、当地の教会員は暖房用の炉、椅子、ピアノ、建築用構造物などに要する労務を全部提供することができます。もちろん資材対労力の比は資材七十、労力三十にかわり、もしも会員がこの労力の全部を供出して建築費の支払いにあらることができると、会員の建築費支払負担は二十パーセントであります。建築費を払った上に土地代金も払うことができます。いま仮に、建築費が十万ドルであるとしますと、支部負担額は二万ドルであります。ところで支部の会員ができるだけの労力を供出したとしますと、支部は三十パーセントすなわち三万ドル貸方にまわしたことになります。そうするとこれは二万ドルを建物に一万ドルを土地に払ったことになるのであります。今のところ私たちは鉛管工、電気工等の熟練工の労賃を払わなくてはなりません。これが三万ドル全部の労賃を支部会員の力で貸方にまわす障害になっていま

す。それであり、各支部は土地と建物の代金の支部負担額と、労力の供出によって貸方にまわす金額との差をなくするように充分な建築基金をもつことがぜひ必要であります。そうすれば、勤労奉仕宣教師と支部会員とで、建築に要する代金の二十パーセント以下のかせぎにとどまることなく三十パーセントまでかせぎ出すことができるでしょう。

今ここに、各支部の会員がもっと貸方勘定に入れることができるのに役立つ二つの方法があります。その一は支部の会員が鉛管工や電気工のような熟練工の友人にその労力を寄附させること。その二は、支部の会員がその友人または会社に資材を寄附させること、であります。寄附した有用な資材は何でも全部、支部のための現金貸方勘定に入れます。たとえて言えば、コンクリートの会社がトラック十台分のセメントの中から一台分を寄附するでしょうし、レンガの会社がレンガを寄附することもあつてでしょう。会員または友人が寄附したものは何でも支部にとって財政上の助けになります。

私たちの努力を美しい教会堂に変えるとは、何とこれはすばらしい計画ではありませんか。あなたがた一人一人が全部、この偉大な建築計画の中にある各々の役割を理解することができるよう、次におもな段階の大体を申ししたいと思います。

一、各支部の支部長は全部「建築委員会」を組織しなくてはなりません。

二、各教会員は全部、毎月百円づつ納めて勤労奉仕宣教師を支えてゆく助けをしてはなりません。これには建築が今行なわれている所にある支部の会員だけでなく、日本と沖繩の会員が全部一団となって努力をする必要があるのであります。

三、個人の寄附により、また基金募集計画を助けることによって支部建築基金を支えること。

四、自分の支部の建築が行なわれているとき友人に労力と資材とを寄附させること。

五、あなたの地域に建築計画が行なわれているときには、定期的にきまつて労力奉仕をすること。

このたび東京から山田五郎兄弟が召されて伝道部長会の特別補助員となり各支部を訪問するはずであります。山田兄弟の役目は建築計画がはつきりわかっているかどうかを調べ、また各支部が各々建築委員会を組織する助けをします。また将来支部教会堂の建築が始まったとき、支部が各々その役割をいつでも果すように備えをする助けも与えます。

私は、アメリカ軍人の会員がこれまでに与えているすばらしく大きな助けに対して、私個人の感謝をあらわすと共に、日本と沖繩の会員の感謝も伝えたいと思います。アメリカ軍人の会員は、これまでに多額のお金を寄附した上に、また現在の建築計画のために定期的に自分たちの時間を寄附しておられます。私たちはアメリカ軍人の会員とその家族の方々の助力によって、現在東洋における勤労奉仕宣教師建築計画の実行に着手することを得たというのをアメリカ軍人とその家族の方々にお知らせしたいと思います。また建築監督の方々や勤労奉仕宣教師の方々も毎日すばらしい仕事をしておられます。

私は今あなた方日本人、沖繩人、アメリカ軍人の一人一人の方に申します。「押せ、肩の力もて。うたいて義務を果せ。人みなたゆまず、車を押せよ」と。

伝道部長指示

一、私たちはデビッド・O・マッケイ大管長の第九十回の誕生日である千九百六十三年九月九日までに、日本と沖繩で合せて二千人の改宗者を得る目標を立てました。私たちは、会員各位と宣教師たちが一致協力して努めるならば、二千人の人々に福音をわち与えることができると思います。毎週これに関する報告が各宣教師に行きますから各支部に発表させます。

あなたの援助で神の御国が大きくなる様子を注目して下さい。

* * * * *
二、各支部の書記は、支部の記録と報告とをかならず期日に間にあうように提出して下さい。そうでないと伝道部の報告が締切りまでにソルトレークの本部へとどきません

* * * * *
二、テッド・プライス兄弟はこのたび伝道部長会の特別補助員として召され、メルケゼデク神権定員会とアロン神権定員会の発展に力を注ぐことになりました。

「神権」の歴史

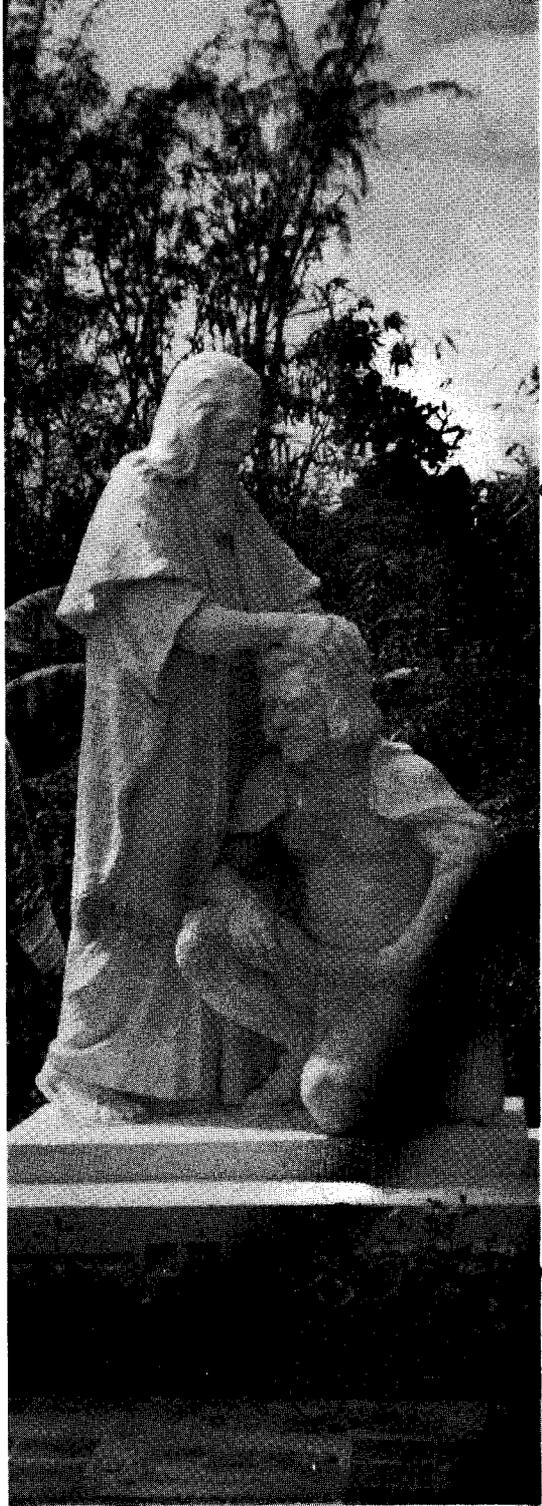
これは昭和38年3月2日、東京西支部の「神権ゼミナー」で行なった話の要点を中心にして書いた。

佐藤 龍 猪

一、アダムの子孫

「先の世」において神から信任された地位に選ばれた人々はみな神権をもっていた（『救いの教義』第三卷八十一頁）。「先の世」で「天使長ミカエル」であった始祖アダムは、この地球がまだ創られない前、天地創造の時に神権を受けあらゆる生き物を治める権能をもっていた（『救いの教義』第一卷九十頁、「予言者の教え」一五七頁および旧約聖書創世記一〇二六・二七・二八参照）。そしてエデンの園を出た後に「救いの計画」を知らされ、完全な神権の権能を授けられた。すなわち「プリンス・ミカエル」としてアダムは「すべての神権時代の鍵」を所有しこれをイエス・キリストから受けた。「教義と聖約」第七十八章十六節には、

「この神は、すなわちミカエルを汝らの君に任命してその両脚を



固うし、高き位に彼を置きて、生命の始めなく齡の終なき「聖者」の御旨と、導きとの下に救いの鍵を与えし神なり」としてある。

二、アダムからノアまで。

「教義と聖約」第百七章四十一—五十二節にはアダムからノアに至るまで神権がどのようにして伝えられたかが誌してある。すなわち、

「この神権はアダムの時代に制められ、左の如く子孫に相伝されたるものなり」

「すなわち、アダムよりセツに伝わる。セツは六十九才にしてアダムより神権を受く」

「イノスは百三十四才四ヶ月にしてアダムの手より神権を受く」

「カイン……彼アダムによりて神権を受けし時、八十七才なりき」

「マハラリールはアダムによりて神権を受けたる時、四百九十六才と七日なりき」

「ジェレドがアダムの手によりて神権を受けたるは二百才のときなりき」

「エノク、アダムの手によりて神権を受けしときは二十五才にして……」

「メツセラは、百才のときアダムの手によりて神権を受けたり」

「セツの手によりてラメク神権を受けたるは三十二才の時なり」

「メツセラの手によりてノアの神権を受けたるは十才の時なり」。

三、ノアからアブラハムまで。

「教義と聖約」第八十四章六一—十四節には次のように誌してあるすなわち、

「さてモーセの子孫は、モーセが妻の父なるエツロの手より受けたる聖なる神権によりこの神権を受けつぎ」

「エツロはカレブの手よりこれを受け」

「カレブはエリフの手よりこれを受け」

「エリフはエレミの手よりこれを受け」

「エレミはガドの手よりこれを受け」

「ガドはイザヤスの手よりこれを受け」

「イザヤスは神の御手よりこれを受けたり。イザヤスはまたアブラハムの時代に在りて、彼より祝福を受けたり」

「而してこのアブラハムはメルケゼデクよりこの神権を受け、メルケゼデクは代々父の系統によりてこれを受けつぎノアに至るまでさかのぼる」。

旧約聖書出エジプト記第三章一節には「モーセその妻の父なるメデアンの祭司エテロ（エツロ）の群を牧いおりしがその群を荒野のおくに導きて神の山ホレブに至る」とだけあって、モーセがエツロから神権を受けたことについては何も言っていない。

しかし、創世記第二十五章一—二節に「アブラハム再び妻をめるとその名をケトラと言う。彼ジムラ、ヨクシャン、メダン、ミデアン、インバク、シユワを生めり」とあり、ミデアンはアブラハムの子であった。従つて、アブラハムはほかの息子たちに与えたとおなじように、このミデアンにも「賜物」すなわち神権を与えたにちがいない。それであるからミデアンの中に神権の権能を受けるにふさわしい者があつたことは不思議でない（「教義と聖約の註解」五〇〇頁、「救いの教義」第三卷二四五頁参照）。

四、モーセのとき。

主なる神はモーセを通して、イスラエルの家を神権者の組織する王国とし、各人が神権者たる完全な祝福を受けるようにしようとしたもうた。「汝ら是我に對して祭司の国となり、聖き民となるべし」(出エジプト記十九〇六)。

ところがイスラエル人は始めモーセを通して与えられた律法に従うことを喜ばずに高い律法をすてた(出エジプト記三十四〇一参照)。予言者ジョセフ・スミスの改訳聖書にはこのところが次のようになってゐる。すなわち、

「ここに主、モーセに言いたまひけるは、汝ほかの石二枚を前のごとくに切りてつくれ、汝が砕きし前の板にしるされし律法のごとばをわれその板にしるさん。されどそのことばは前とことなる、われ彼らの中より神権を取り去ればなり。されば、わが聖なる神権と神権の儀式とは彼らに与えられじ、われ行きて彼らの中において彼ら亡ぼされざらんためなり」(ジョセフ・スミス改訳聖書、出エジプト記三十四〇一参照)。

また「教義と聖約」八十四〇二十三―二十八には次のように誌されてゐる。

「さてモーセは、荒野においてイスラエルの子たちにこの事を明らかに教え、その民神の面を見ることを得んために致々として彼らを聖くせんことを努めたり」

「されどその民その心をかたくなにしたれば、神の御前に出ずるに堪えざりき。故に主の憤り彼らに向かつて燃えたれば、主は怒りたまひ、彼ら荒野に在る間主の休息に入るべからずと誓いたまへり。この休息とは、すなわち主の無上完全なる栄光なり」

「この故に、主はモーセを彼らの中より取り去りたまひ、またかの聖なる神権も同じく取り去りたまへり」

「されど小神権は続きたり……」。

イスラエルの民がもしも神に忠実であつたなら、聖なる神権(大神権)のあらゆる祝福と特権とを受けたであらう。しかし彼らは高い律法に従うことを拒絶したから小神権の祝福を受けるにとどまり、モーセの律法に服従しなければならぬ状態がしばらくつづいたが、イエス・キリストがこの世にお下りになってモーセの律法の目的は成就されて「完全な福音」の律法がこれに代わつた。

アブラハムはその神権をイサクに伝え、イサクはその神権をヤコブに伝え、ヤコブはその神権をその子供たちに伝えた。しかし神権はヤコブの子孫にだけかぎって伝わつたわけではない。アブラハムはサラのほかにハガルおよびケトラを妻とした(創世記十六〇―一三、二十五〇―一四参照)。ハガルの子はイシマエル、ケトラの子はジムラ、ヨクシャン、メダン、ミデアン、イシバク、シユワ等である。アブラハムは自己の神権をこれらの子供にも与へたことであらう。モーセは、アブラハムの裔ではあるがヤコブの裔ではないミデアン人のエツロから神権を受けた(「救いの教義」第三卷八十七頁参照)。

ここに述べたように、モーセが取り去られると共に大神権もまた地上から取り去られたが、主は大神権の権能を必要と認めたもうたときには、特に大神権の神権者をイスラエルの民の中にのこしてお置きになつた。従つてサムエル、イザヤ、エレミヤ、ダニエル、エゼキエル、エライジャ等は大神権の権能を帯びた予言者であつて、主の「みたま」の導きにより神権の権能によつて、予言をしまた民

に指示を与えたのであった（「救いの教義」第三卷八十五頁参照）。
五、キリストの降臨前後。

バプテスマのヨハネの父である祭司ザカリヤは主の聖所の中で神の御使いを見た。これはザカリヤのもっていた神権の権能による。また予言者シメオンは、「御霊」に感じて宮の中で幼児イエスを取りいだきこれに祝福を与えた。これもシメオンの帯びていた神権の権能による。このように当時もお、神権の権能をもった信仰ある人々がイスラエルの中にこつていた（ルカ伝一〇八一、二〇二五—二八八および「救いの教義」第三卷八十六頁参照）。

さて、イエス・キリストが来りたもうたとき、キリスト自身は大神権の大祭司であつたから（ヘブル書二〇十七、三〇一、五〇十、六〇二十参照）、この大神権は再び世にひろがった（ペテロ前書二〇五—九参照）。しかし、使徒たちが人々のうちに導きと教えを施さなくなつてからは、異教の教えがまことの福音の中に入つてきて、偽りの教えを教える者が世にはびこるようになって、神権の権能はまたこの地球上から取り去られてしまった（黙示録第十二章および「救いの教義」第三卷二七九頁参照）。

六、大神権の回復。
神のまことの教会が再びこの地上に回復されるためには、まず神権が回復されなくてはならない。

千八百二十九年五月十五日バプテスマのヨハネが来つて、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにアロン神権を授けた。つづいて同年（一八二九年）の六月のある日（正確な記録はこつていない）ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人がジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに來つて大神権の権能を授けた（「教義と聖約」第十三章、二

十七〇二十一—三三、百二十八〇二十参照）。

また千八百三十六年四月三日、カートランドの神殿においてモーセ、エライヤス、エライジャの三人がジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにあらわれて、いろいろの目的のために神権を行使するための鍵を与えた（「教義と聖約」百十一—十六、百二十八〇二—十八〇二十一—二十一参照）。

このようにして、神権のすべての権能とその鍵とは現在わが末日聖徒イエス・キリスト教会の中にあり、これが「わが教会が唯一の神のまことの教会である」という各自の証詞の重要な根拠である。

* * * * *

* * * * *



教会建築部長 メンデンホール兄弟 を迎えて

(末日聖徒イエス・キリスト教会)
極東建築部事務室

渡 部 正 雄

。かつまた教会の公益のために土地を買い、礼拝の家を建て、やがて啓示さるべき新エルサレム建設のために使用すべし。
そは、われが神殿に来る時わが誓約の民のその日一つに集らんがためにして、またわが民を救わんがためにこれをなすなり。

教義と聖約 四十二〇三十五—三十六

昨年九月三十日、教会史上、この極東の地に於て、歴史的な東京北支部の歛入式に始まり、本年初頭、吉祥寺に於ける西支部の歛入式、小岩に於ける東支部の改築、南支部、横浜支部、群馬支部更に遠く沖縄、台湾、韓国と教会の極東建築計画が昨年夏着任の極東建築部メルビン・D・ヘルルス監督指揮の下に着々と進められて居る時、全世界教会建築計画の為に東奔西走、全世界を巡って、席の改まるまもない、ウエन्दル・B・メンデンホール教会建築部長夫妻及びアッシスタントのハーワード・ダン兄弟夫妻を東京に迎え、親しくその話を聞き激励の言葉を受けることが出来たことは、神の家を建てる聖業の先頭に立つ勤労奉仕宣教師は勿論、私たち全会員の齊しく、大きな喜びとして感謝の念に堪えない次第であります。

十六日夜、羽田空港に着かれた一行は翌十七日の安息日にはワシントンハイツの集会に出られ、その聖餐式でメンデンホール部長は約一時間に亘つて全世界教会建築史及び建築計画に就て語られたそのうである。日本人会員は丁度同時刻に指導者会があつて残念ながら聞くことが出来なかつたが、メンデンホール部長は各支部建築状況及び、土地等視察、その他諸問題処理の三日間の多忙な日程の内に特に十九日夜、建築部員及び勤労宣教師たちと親しく語り合う機会を設けて下さつた。アンダーセン伝道部長御夫妻も御出席下さり会は午後七時半ワシントンハイツの教室で勤労宣教師ウォルズリー長老司会の下に進められた。

底力のこもつた勤労宣教師のコーラスが美しく会場に流れた。日焼けして頬は希望に輝き、たくましい腕は日夜の奮闘を物語っている、メンデンホール部長夫妻も殊の外喜ばれてこれに答えて、マウリー語で勤労の讚美歌を素晴らしいドワーエツトが歌われた。

又北支部監督カトウィック長老、西支部監督ヘルス長老、建築事務室、カラマ長老の子供さん方の可愛い歓迎の歌があり、又中央支部会員、渡辺松井両姉妹の素晴らしい、日本舞踊、荒城の月などに、会場はほんとに楽しいモルモン独特の家族的ふんいきに満たされて行った。ダン兄弟の挨拶に次いで立ったメンデンホール部長は佐藤竜猪兄弟の通訳により、約一時間に亘って素晴らしい話をされた。先づ私が負しい英語で開会の祈りを非常に感激されて繰返して述べられたのは、ほんとに感激恐縮した次第でした。私はたゞたどしい英語でしたが、心から、今この伝道部に着々と進められて居る教会の建築計画に、又この計画にたずさわって居られる部長、監督、すべての会員、特に勤労宣教師に心から感謝し、この聖なる主の御業が益々この地に栄え行くようにお祈りしたのであります。

メンデンホール部長は今日は本伝道部にとって、歴史的な日である。今や全世界に亘ってこの教会建築計画が進められ本伝道部に於てもこれが展開せられんとしている時、建築部長一行と監督、勤労宣教師が公式に親しく一堂に会し、話し合う機会を得たのは今夜が始めてであるが大変喜ばれた。そして現在はずか二十名足らずの勤労宣教師であるが計画の進展に伴い、数百、或は千にものぼる宣教師がこの聖業に召されるかも知れない。今はほんとに始まったばかりである。今日南太平洋地域で既に勤労宣教師の総験を持った者が一千五百名余り又現にこの聖業に従事している勤労宣教師が全世界を通じて一千六百名近く居り計三千名以上の者が何時でもこの計画に従事する用意があるのである。又三百人の監督が働いて居る、日本では今ヘルス監督の下に東京北、西、東各現場に一人づつ監督が居るか近く更に六名の監督が派遣されるであろう、彼らは今アメリカで眠っているが私が帰ったらびっくりして眼をさまして飛んで来るであろうと言われて皆を喜ばされた。

部長は特に勤労奉仕宣教師の重責に就て強調された。勤労奉仕宣教師は、行いを以て信仰を示す最もよい模範である。自ら尊い汗を流して実際に神の王国を築いているのであるから、貴方たちこそ真の最も強力な宣教師でありその働らきによって多くの人が改宗する

であろうと励まし、昨年英国で起ったことに就て次のように述べられた。スコットランドの教会建築現場の横を通った一夫人がそこで立派な青年男女が楽しそうに工事に従事している姿を見て不審に思いついた如く、勤労宣教師と会員たちが教会堂の建築にたずさわっているのを知り、自分も仲間に入れてもらいたいと早速、上衣を脱いで勤労に従事し、来週は夫も連れて来てと約束し、四十哩も離れた家から子供四人も連れて来て毎週、金曜土曜と働られた、そして或土曜日の午後、働らきを終えてからこの夫人は宣教師に向って私たちが一家揃って会員になりたいと証し、その翌安息日にめでたく一家揃って会員になったのであった。又やはり英国の或支部で五、六人の非会員が進んで建築工事を手伝っていたが両親たちは怒ってそれぞれの家から追出してしまった、教会は彼らに宿舎、食事衣類を与えたので彼らは喜んで働らき続け、先づ彼らが改宗し、ヶ月後は、その両親迄も改宗したのである。このようにして去年一年だけでスコットランドではわずか二、三千の会員から一万人以上に発展したのである。勤労宣教師たる貴方たちの行いこそ人を動かすものである。貴方たちは口唇だけでなく、その腕を以て身を以て伝道しているのである、貴方たちは今この伝道部の土台を築いているのであり歴史的な事業にたずさわっているのであると激賞した。

この尊い事業、主の御業は、日、一日と躍進して止るところがないのである。現在全世界を通じて三十三時間に、五百人平均の改宗者が生れているのである、即ち一晩寝ると一つの支部が出来ているのである、けれどもこのテンポで進んでも東京の人口が全部改宗するには何年かかるであろうかと聞かされた。我々の眼前には大変な仕事が生かされている。けれども一歩々々と踏んで登って行く時に必ず頂上に登ることが出来るのである。高い山を見て登れないと思へば遂に山の向側を見る事が出来るのである。シオンの山から万民に福音は宣べ伝えられる、主はよろずの民に福音を宣べ伝えよと言われたと前置きしてこの聖文を巧みなマウリー語で朗々と述べられたが、これにはさすがの竜猪兄弟も、と云うわけですと結んで一同の爆笑を招いた。

万民に宣べ伝えよと命ぜられた主の誠命は、今や実現しつつある、教会は既に短波放送局を持って福音を全世界に宣べ伝えていくが近き将来に於てこの日本に於てもテレビでソルトレークの大会の状況を親しく見ることが出来るようになるであろう。福音は大腿で歩く私はドイツを旅していた時、手に持っていたトランジスタに突然タバナクル・コワイヤが入って来たのである、神の声は屋根の上から世界中何処に居ても聞けるのであるこの福音は大腿で歩き、神の王国は善だるまのように大きくなって行くのである。十年、二十年後の教勢の発展は全く予測出来ない。この伝道部に於て一九〇一年、ヒーバー・ジェー・グラント部長によって、この地が献納されて一九四八年、カウリー使徒によって再開されてからどのようになら展して来たであろうか、今やどんどんと教会堂が建てられているがこれもほんの始まりに過ぎないのである。教会堂が建つと必ずそれに溢れる程の人が集って来るのである。メキシコの或町で建物が建って公開した時に一千人の人が入って来たのである。為政者に教会に反対する者が居て教会に行くことを禁じたのであるが彼らは個々の家でテレビで教会の様様を見て、こう言う教会こそ我々の望む教会であると言って反動的に多くなつたのである。

アメリカから又日本からこの尊い教会堂建築にたずさわって居る皆さんが神の宮を造る精神を把握されるように、そして支部で証をするように、そして多くの会員求道者を、この聖なる事業に連れて来るように、そして最後迄忠実に神の王国を築き上げるようにと激励して記念すべき講演を終えたのであります。

それからメンデンホール部長さんの希望により、カラマ長老と伝道部長さんの素晴らしいハワイの別れの歌のドワーエットがあった。続いて一昨日大阪の方から着任したばかりの新山兄弟は幸運にもメンデンホール部長から直接按手任命されて感激に浸っていた。又正式に勤労奉仕宣教師に志願した南沢兄弟もダン兄弟から按手任命された。

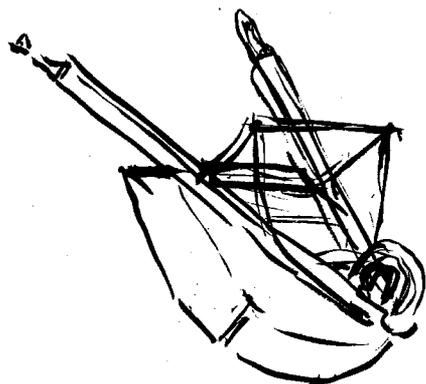
それから私たちはくつろいで部長夫妻を囲んで楽しい一時を過ごしたのですが最後に部長さんは親しく私に向って次のように念をおさ

れた。

「私はこの伝道部に神殿が何時建つとお約束は出来ない。只皆さんの信仰により完全な福音がもたらされることを約束します」

伝道部長さんは、私たちが忠実にこの建築事業に力を尽くし、又私たちの系図探求に精を出すなら、そしてこの伝道部に神権者の数が、もともと増えるなら福殿の建てられる用意が出来、用意が出来た時に必ず主はその神殿を建てられるであろうと励まされた。

私たち本伝道部の兄弟姉妹の一人一人が、よくこの重責を認識して、メンデンホール部長及びアンダーセン伝道部長さんの御期待に副うよう、主の宮建設に向ってまい進しようではありませんか。



東中央地方部大会 報告

渡 部 正 雄

(東中央地方部第一副地方部長)

三月二十三、二十四日、私たちの待ちに待った楽しい東中央地方部の春季大会の日は訪れた。既にその前日はるばる北海道から馳せ参じた熱心な兄弟も居る。二十三日MIAに先だって二時から表参道の西支部と、南支部の二箇處で地方の支部と東京の支部との懇親会が行われた。西支部の方では東京北、西、中央と山形、松本、甲府、南支部の方では東京南東と、横浜、新潟、仙台であった。西支部の方では中央支部の安斉兄弟及び北支部の神崎兄弟の司会で各種ゲーム、歌合戦などあつて非常に楽しく親しみ合うことが出来た。歌合戦では山形支部の岩田姉妹と青木兄弟が優勝した。南支部でもゲームとダンス等が楽しく行われ大いに会員親睦の効果があがつたようである。

午後七時から豊島公会堂でMIA、演劇の夕鶴が上演された。中東兄弟が特に力を入れた今回始めての試み、地方の六支部による六幕の各幕担当による競演で素晴らしい演劇であった。だから最後に名優たちが壇上に勢揃いした時は、さすが広い舞台もいっぱいにな

つたのであった。一幕毎に役者は變つても、一つみたまに一貫した兄弟姉妹の演技は素晴らしい調和を保って、全体を通して物語りに秘められた愛と犠牲の精神を美しく遺憾なく發揮出来たのである。中東兄弟の言われる聖なるものにも達し得たのではないかと思われる。舞台装置を担当された塚内姉妹の苦心の作かと思われるがあの鶴の影は実に素敵であった。私はこの美しい聖なる鳥の女王を見ていと次の聖句を連想する。

それは神は乱の神にあらず、平和の神なり。

それは私が曾て満州の広原で獵をしていた時に、鶴の大群を目撃して知つたのである。

丁度パレードのように三列横隊に飛来して来た鶴の大群は、あれよあれよと言う間に端の方から一羽一羽と続いて渾河の畔の砂浜に降りて来たのである、そして全部着陸してからも一糸乱れずに列をなして逍遙するのであるそして夕闇が迫ると河の中州に渡り密集して眠りに就いたが、両端に歩哨が立って頭を高く上げて夜警につい



本自聖徒イエス・キリスト教会
北部樺太松道部
東中央地方部 大会

会場 豊島公会堂
日 期 三月二十四日
北支路松道部 主催
1987年3月24日

ているのである。翌朝あの美しい白い羽、赤い頭、黒い尾、全身を朝日に輝かせて悠然と大空を飛翔する時も一隊毎に代る代る隊長に從つて、決して列を乱さなかつた。そして最後に千羽の鶴が同時に舞上り三列横隊をなして遙か北の空へ飛び去つて行つた。杳然と残された私は、

「鶴さん、私を連れて行つてくれ」と大声で叫んだ、この秩序、この平和、この美しさ、誰が教え誰が指揮しているのだろうか、私はその時神と云う言葉を知つていたので、それは神様であり、この鶴の世界こそ神の王国であると思つた。私が三十年前に鶴さんに叫んだ、この願いは奇しくも今天の父なる神に聞き入れられた、今私は一家揃つて人間社会の神の王国、この教会の中で幸福と感謝の日々を過させていただいて居ります。

千羽鶴は東西の対立を越えて広島空に集つて居ります。幸福なるかな、平和ならしむる者、その人は神の子と称へられん。

仙台支部は、支部長夫人の紙谷姉妹自ら鶴さんになられ小林、福田両兄弟始め皆さんの熱演により一等の榮冠を獲得した。その蔭には又十年以上も仙台支部の演劇を指導して來られた演出担当の中野姉妹の力があることを見逃せない。二等になつた横浜支部の男性は皆新求道者であつたようだが、これを機会に皆熱心な求道者となつていつの集會にも揃つて顔を見せたいのは誠に喜ばしい限りだ。松本支部、甲府支部新進の東支部の兄弟姉妹たちもそれぞれ遠方から乘られ熱演を展開されたことを厚く感謝致して居ります。

翌二十四日、神権會は武蔵ドレメで扶助協會は豊島公会堂で午前九時開かれた。早朝雨模様にも拘わらず定刻迄にどしどしとつめかけた神権者にさすがの地下大教室も一ぱいとなり後から来た人たちは後列に立ち並ばざるを得、アンダーセン伝道部長さんは、私が着任してから最も大きな神権者の集りであると言つて喜ばれた。分級する前に部長さんは神の王国の躍進と神権者の責務に就て強調された、分級してからアロン神権は指導者の佐藤泰生兄弟、メルケゼデク神権は第一長老定員会々々長会堀田、山田、中村三兄弟が担当され

た。山田兄弟は定員會の組織に就て話し中村兄弟は、その活動並に計画に就てその抱負を述べた。若さと熱に燃えた神権者たちにより活潑な質問が展開され本伝道部の將來を担う定員會の輝かしい前途が期待された。

扶助協會は東京、北、南、横浜三支部會員により扶助協會の各レッスンのデモンストレーションが行われた。

十時半から午前的一般大会、勤勞奉仕宣教師、松浦兄の敬虔な祈りによつて開かれ、佐藤泰生兄弟が大神権の準備としてアロン神権に就て述べ次で山田義郎兄弟はメルケゼデク神権又第一長老定員會の活動概況及び計画に就て報告された。次で横浜L・D・S合唱団田中支部長さんとを囲んで素晴らしいコーラスであつた。讚美歌集を持たない信仰の証人、武蔵野兄弟の姿が特に人目を惹いた。指揮者斎藤兄弟のお嬢さんのりえちゃんが壇上で歌つて居るお母さんの側に寄りまつたので次いで演壇に立つた今井地方部長は、先ずこの小さな未來の聖歌隊員に感謝し、教會の建築計画の推進に一同を激励し、終りに、本伝道部最初の外国伝道に召された信仰の幸運兒奥山芳美兄弟を紹介した。続いて立つた奥山兄弟は日本人として外国伝道に召された誇りと重責に固い決意と確信をひききし、特に選ばれた主の僕としてハワイでの活躍が期待された。次に帰任を明日に控えて壇上に立つた第二副伝道部長のポイド長老は眼下に愛するお母さんを見てさえも嬉しうである。六尺近い長身も副伝道部長の権威もお母さんの前では、只喜々とした幼児の感だ。巧みな日本語でお母さんにはわからないと一同を喜ばせ慌てて側に付き添つて居る松井姉妹に訳さなくてとどどと満堂を笑わせた。

続いて吉野洋太郎副伝道部長は、本教會の急速な發展振り一スコットランドの例をとり昨年度一年間に會員が二千足らずから一万二千名に躍進したと発表又特に勤勞宣教師に起立しつらうから、その勞苦をねぎらい、教會創立当時の開拓者たちの苦闘を併せ忍んで、その尊い奉仕を讃称した。昼の休みには多数の扶助協會員がアンダーセン姉妹を囲んで楽しく昼食を共にし、日曜学校、MIA、系図それぞれ指導者は懇談した。

二時から午後の部が始められた。先ず特別発表として、本伝道部史上最多数、十六名の大神権昇進者の名が吉野副伝道部長によって読み上げられ起立した十六人の兄弟に伝道部長さんからお祝と激励の言葉があった。次いで今井地方部長が甲府支部会員に起立を願って野々垣兄弟を支部長八代兄弟を第一副支部長とする日本人会員による支部長組織を発表し会員の支持を得た。

フィールドモア長老の素晴らしい日本語による幹部支持の後、私はメンデンホール部長の話の一部を紹介し、私たちが建築計画と系図探求に熱意ある信仰を示す時必ずやこの日本の地にも神殿を迎えらるであろうと励まし合った。

次に東京L・D・S合唱団により、主よ暴風荒びの美しいメロディが場内を一新した後アンダーセン伝道部長さんが先に立たれて私たちが会員の務めを、(一)教会を固めること (二)隣人に伝道すること (三)先祖を探求して死者の儀式を執行すること、の三項目にわけて諄々と説かれた。最後にアンダーセン姉妹は視覚教材を用いて私たちが主の僕として人前にその光を輝かせ、その身の模範を以て伝道し、主の栄光を現さねばならないと励まされた。

更に雨降る中を多くの兄弟姉妹は江古田の北支部建築現場に集い、五時頃より約一時間に亘って勤労宣教師感謝の特別集会が開かれた。

自らの手でコンクリートを固め顔に汗してブロックを積み上げた石川兄弟の熱弁は一同に深い感銘を与えた。又信仰生活五十年、慈父のように勤労宣教師の糧食を世話して居られる奈良兄弟の青年をしのぐ熱弁は折から一段と強く降りしきる雨を衝いて朗々と響き亘った。私は後方に立っていたので姿が見えず始め、どの若い宣教師かと考えて居たので知らざれてびっくりし、イザヤの言葉の真実であることに今更の如くびっくりした次第でした。又風雪にきたえられたたくましい宣教師一同の底力ある声が一つとなって、働らく者の凱歌、世はよく働らく人を求むの讚美歌が豪雨に和して鉄骨をゆるがし雨空高く響き亘った。この夏には立派に完成したこの会堂に、幾百千の会員がびっしりとつめかけ、献堂の祈りに、勤労奉仕

宣教師たちは歓喜の涙を流すことであろう。そして今日この夕闇迫る雨天の屋根のびしよぬれ特別集会が懐しい思出の一夏として北支部歴史の中に綴られるであろう。丹羽兄弟の激励の言葉を以てこの大会の最終行事、勤労奉仕宣教師と共に、を豪雨の中に閉じたのであった。

支部役員名簿 その二 旭川支部

支部長

安田 琢三 旭川市九条十五丁目左四号西塚久四郎方

第一副支部長

大田原 雅 稔 旭川市春光町三七 大雪寮内

第二副支部長

近藤 亘 旭川市曙一条六丁目

書記

盛永 保 旭川市八雪通六丁目

日曜学校会長

遠藤 均 旭川市八条十一丁目

MIA会長

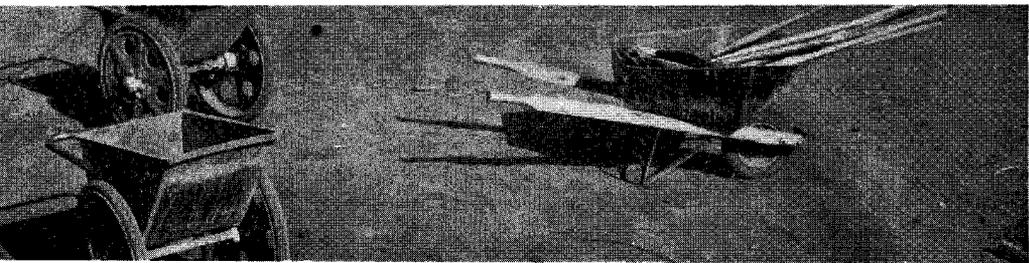
木崎 正己 旭川市春光町自衛隊九連重迫中

扶助協会会長

山地 陽子 旭川市曙二条五丁目

系図委員会会長

大田原 雅 稔



主の素晴しき

弟子 (下)

神崎良太郎 (東京北支部)

多くの人々がそうであるように、私も宣教師を通して神の教えを知った。そのとき私を最も引きつけたものは、福音以上に伝道する宣教師そのものであった。十九、二十、二十三才位の若さで自分のしたいことも放つたらしかしてしかも何の報酬も求めずに伝道をしている。両親が熱心の余り強制的に伝道させているとするには余りにも彼らは真剣である。それに人間的にも落ち着きがあつて立派である。彼らをそのようにいぶからざるを得なかつた当時、このようにいぶからざるを得なかつた当時、このことを今でもそっくり思い浮かべること

ができるほど、その印象は強烈であつた。驚きと敬服の混つた氣持を今又新しく、勤勞奉仕宣教師達と出會ひ、話すたびに感じざるを得ない。ただ現在は求道者であつた時代と違つて、彼らを動かすものがなんであるかをはつきり理解することができる。

彼らは末の日に回復された福音が本當のことを言っているのであつて、眞実、人によるこびと幸わせをもたらすものと確信している。それなるが故に天なる父の御言葉に従がい自らの幸わせと人の幸わせとを願つて新しい生活に入ったのである。一言でいへば、その座にあるものは神に対する信仰であり、信頼であり、自分以外の人のことを考える愛である。

モルモンの人々に感動する点は、口先だけではない実践を通しての愛が實際にあることである。自己に執着する氣持を取り除くことは至難なことである。自己の利益を省みないといふことは困難なことである。彼ら、勤勞奉仕宣教師として聖人君子ではない以上、召しに応じようとしたときにこの壁におつつかからなかつたわけではない。しかし最終的には各々の壁を乗り越えた人々である。現在数多くの兄弟の愛ある援助のもとに、彼らを中心として教会堂建設は着々と進行しているが、ここで実際に彼らの横顔をみてみよう。氏名はアイウエオ順。①出身支部②召しに応ずる前は何をしていたか③支部でしてきた仕事④会員となつて何年か



石川善次郎兄弟

①中央↓北↓中央↓北↓西 ②大学生。バイトとして、ミッキエ工↓株屋↓時計のバンド製造↓NEC製品管理↓印刷屋 ③大たいの仕事をしているが主なものとして日曜学校、支部長会の第一、第二副支部長、支部書記等④六年。

全く頼りになる男。学校、教会、バイトと超人的に忙しい生活をしてきた。したがって現在の教会一本の生活は、ゆとりがあつて楽だとか。福音をよく理解し前々から、召しにいつても応ずるよう準備をしていた。心からの神への信仰と信頼は会員に多くの良き影響を与えている。その笑い顔は素晴らしい。演劇が得意でMIAA大会ではいつも主役、自作自演もしている。その他詩吟をやり、登山気狂い。二年後は又、アルバイトをしながら学園に戻る予定。



大橋正弘兄弟

①北 ②プレス工 ③執事としての諸々の仕事 ④一年

最年少者である。福田支部長にすすめられて自分でもかまわないのかとびっくり。反対する両親や、職場の人を必死に説き伏せ、結局納得させた。今の充実した生活を送れるのも、あのとき支部長がすすめてくれたからだと感謝するのも忘れない。このような彼も反面、子供っぽさ、茶目っ気が一杯、みんなから愛されている。あるとき、アメ玉を一つ差し出すと手を引くため取らない。いらぬのかかと思つたら、一つではいやだという。思はず笑つてしまったが何か心の中に暖いものを感じた。二年後のことなど考えず、とにかくこの仕事を力一杯やりたいとのこと。



工藤駿一兄弟

①北 ②ハウス・ボーイ、大学受験準備。③聖徒の道販売、執筆の仕事 ④一年半
こせこせしたところのない思いやりの深い九州男子。

支部長の推選を受けたあと、証詞、精神的幸福をもつと求めたいと思つて両親に許可を求める。長男でもあるし、受験準備中だから許すはずがないと思つていたとか。意外にも「人のことを思つて奉仕することは立派なことだ、誇りを持ってやらなさい。」という返事。誠に素晴らしい両親である。感服。モルモンの親としてこれほどにスカッといえる人は何人いるだろうか。ラジオの組立が得意。二年後は学校に行く予定。

クレアランス・カートウィック長老

北支部監督宣教師、ソートレック出身。一姫二太郎のパパ。今度が六つ目の教会堂建設建築は通信教育などで学んだが、彼の指導はまことに巧み。とても明るく、でっかい身体からでっかい声をだして指令を飛ばす。ところが聖餐会での話ぶりは謙遜そのもの。声も日頃の彼を知る人には別の人かと思うほどの静かである。底抜けに明るく、冗談をとばす彼。神の前には誠に謙遜で物柔かな彼。典型的なモルモンの姿をここにみる事ができよう。彼についていけば必ず立派に完成するという信頼を寄せられている親分である。



小泉裕功兄弟

①横浜 ②ハウスボーイ。③第二副支部長
横浜伝道委員会会長、現在伝道部系図委会第二④四年。

のんびりした感じの兄弟だが、ちょっとしたアイディア・マンド。「聖徒の道」の編集会議では彼独特のしゃべり方で有益な意見を述べていた。宣教師の生活をみていて、つよく伝道したいと思っていたのでこの機会をつかんだとのこと。現在の生活を通して、モルモンとしての生き方が神の力によって少しわかってきたと感慨深げ。両親の反対はなく二年後は珠算のバイトでもしながら学校に行く予定、珠算は一級。



斎藤暁兄弟

①北↓西②山一証券③支部系図委員長、教師。④四年

彼は今、「日々好日だ」という。しかし彼の信仰生活は決して平坦なものではなかった。この召しに応ずるか否かも考えあぐねたが、自分達の建物は自分達で建てたかったし、モルモンとして最後まで残る自信をつけなかったので決心したとのこと。自らの経験を通して彼はいう。「自分に宣教師になりたい気持があるならば、少々無理しても出た方がよい、それだけの価値がある。」と。「少々無理しても」というのは「余り思いわずらうことなく神を信頼して」の意であることはいうまでもない。二年後のことは考えていないとのこと。できれば建築の技術を身につけたいそうだ。ダンスがうまい。

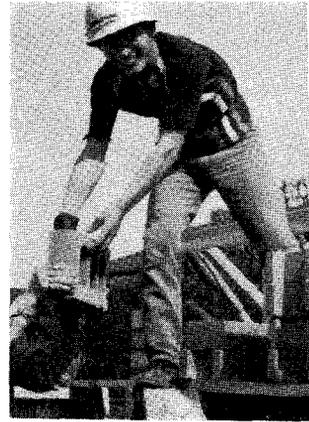




高本啓一兄弟

①札幌→室蘭②英語の勉強③支部日曜学校
第二副会長④四年

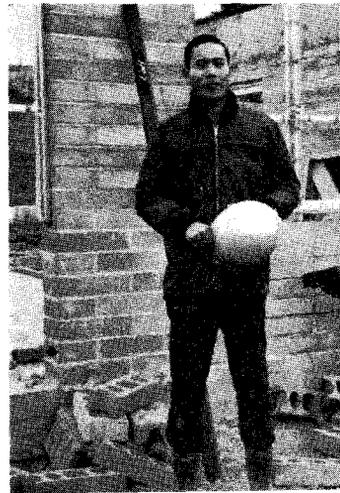
教会を大切に思う気持ちが溢れているような人である。宣教師にすすめられたのが直接の動機だが、全生活をあげて自分自身の時間を神の御業に使いたかったし、召しは決して拒否しない主義であったので出たとのことである。御国を求めるとそれに応じて与えられるという信仰の下に二年後のことは何も心配していない。



チャールズ・田畑兄弟

①南②ハウスポーイ、センバン工、クリーニングのプレス、ソバ屋（作るのも、出前も得意）③神権会、聖餐会の書記を助ける④一年半

今までしてきた仕事の中で一番いい仕事であり又差別がなくて一番いい社会だという。早くから独立して生活をし、世の荒波にもまれつつけてきた彼にとっては現在のきつい生活も安息の生活のようである。今までの経験を通して、やろうと思えばできるのだという尊いものを得ている。みんなのために役立ちたいと思って召しに応じたが、モヤシ育ちでない彼にとっては二年後のことは勿論なんの心配もない。資金があれば孤児院をたてたいそうだ。



新山靖雄兄弟

①柳井②今春高校卒③支部M I A日曜学校の会長、支部書記等④三年

高校卒業すぐとは、アメリカの兄弟並の出陣ぶり。背もスマートに高い。ただし、イガグリ頭がちよっと違う。一見、おとなしそうだが、なかなかのファイター。宣教師を通して伝道部長にすすめられ、良い経験でもあるし、神さまの計画を一つでも多く助けたいと思つて決心。このあとフル・タイムの宣教師もやりたいとのこと。それがすむと大学にいく予定。両親の賛成は勿論得ている。今、家庭集会を受けているそうだ。

林孝兄弟

①中央②東天紅でコックさん。調理士の免許をもっている③支部系図書記④一年半

よりよい味をだすには精神的修養も必要だと知り、教会の門を叩いたのがウンのツキでモルモンになった人。祖父が坊さんだった為に、体内に仏的要素がすよくひそんでいるそう。それで早くそれを除き本当のモルモンになりたいと思ひ又福音を实践したいと思ひ決心。現在の生活をしてみて、何故もつと早く出なかつたのかとくやしきほどに思つていようだ。二年間は完全に料理のことを忘れたとか。



松浦秀明兄弟

①福岡②支部長会第一副支部長、支部書記教師、その他たくさん。③木型工④七年

モルモンとして年期が入っているからだろうか、何か着着き身についている人。彼が支部を去ったことはさぞ手痛かつたことだろうと福岡支部の兄弟達に同情した。宣教師となるまでに相当の困難があつたようだ。宣教師以外、周囲の人はみんな反対したそう。それほどに各々の場所で彼は大切な人だつたのだろう。彼自身にとつても今が技術習得上一番重要な時期だけに二年間のブランクは大きな犠牲であつたに違いない。しかし一生この仕事をするわけでもないし今でないとできないと決心。奉仕によつてこそ神に認められ救われ、子孫にも良い影響を与えることができらうと彼は考える。建築家になりたいとも思うが、二年後は元の生活に戻る予定。



松島烈偉兄弟

①中央↓西②工作機械の設計③MIA副会長、支部長会第二副支部長、支部書記会計。④三年半

地道な人。支部の仕事でも、建設場での仕事でも、黙々としかも確実に責任を果している。主に対する信頼も、それだけに強い。祈りのなかで常に主の宮居が日本の地にも立てられるように求めて来た。そしてこの祈りがかなえられたとき、彼自らが宣教師となつて出たわけである。願うだけの人は多いが、その願ひを行ひでもって果して行く人は少ない。身体の頑丈でない彼には今の仕事はきつい。だが満足している。珍しい会社もあるもので彼の会社の人は、彼の計画をきき、喜んで協力してくれた。すなわち二年後彼は元の会社に復帰する。





マルデン・ウォルズリー長老

カナダ出身。カナダの大学からBYUに入った。在学中召しを受け、二年五ヶ月前に日本に来た。昨年十二月まで、専任宣教師だったが、アルバイトで覚えたブロック積み
の技術を買われて、勤労奉仕宣教師に召された。日本人の兄弟と一緒に生活している為か日本語がすぐくうまい。現場と宿舍の往復の時間を利用していつもカチカチと音をさせながら硬貨の端をたたきつぶして中をくりぬき指輪を作っている面白い兄弟である。



南沢輝幸兄弟

①北↓西②オート・ラジオの技術屋さん

④二年

自分の教会は自分でたてたかったのと、結婚前の最後の機会と思って召しに応じた。この仕事は疲れるけど、うちとけて仕事でき、楽しい。物を作り奉仕する喜びを一杯に感じること。彼は天父なる神の子供である人々を一日でも早くこの建物に迎え入れたいと思つて仕事に励んでいる。二年後はもとの生活に戻る予定。



山田利昭兄弟

①旭川↓②プリンス・ホテル、その他のホテル勤務③図書係④一年半

この仕事が面白くて、楽しくって仕方がないといった感じの人。彼自身もこの建築の仕事は性にあつて心から喜んでいる。誰かの万才の真似をして言葉の終りに「……ギツヨン」というので、話をしていてふきだしてしまう。カンくるってしまうが本当に明るく愉快なんだ。あとの事は考えず今の生活に集中したいとか、ギツチヨン。

メルビン・ヘールズ長老

西支部担当の監督宣教師。カルフォルニア出身。一男二女のパパ。彼の父はひと呼んでビックヘールズといわれる人で極東地区の建設に関する総責任者。召しに応ずる前は建設会社の社長さん。教会堂の建設はこれが始めたが、商業ビルやアパートなどをたくさん建てて来た。建築は父からならったとか。実によく働く人だが勤労奉仕宣教師も気持よく働いてくれるとよろこんでいる。



(編集子注)

この原稿が編集部に入ってから三人の兄弟が新たに「主のすばらしき弟子」に加わった吉田次郎兄弟

岡町支部出身、教会に入って一年八ヶ月目神権は祭司の職を得て、支部で日曜学校書記として活躍されていた。

福田則昭兄弟

北海道札幌支部から高等学校卒業後すぐ上京された。バプテスマを受けてから一年目。

古波啓次兄弟

沖縄那覇支部から阿倍野支部に、そして四月十五日に按手札を受けたいちばん新しい宣教師だ。

ロドニ・ザーク長老

小樽支部、東京西支部、それに大阪地方の支部の人たちに顔なじみの宣教師。昨年の夏発足まもない建築委員会を助けて、ヘールズ長老と関西の支部を廻っていられた。当時から、勤労奉仕宣教師になりたいといっておられたので、張り切って仕事をされている。

その後、ケナック・比嘉長老が参加されて、広い宿舍も満員の状態だ。原稿のべ切の都合で、以上の人たちの写真をのせることができなかつたことが残念。次の機会にたくわしく紹介したいと思っている。

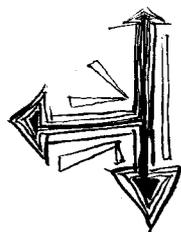
あとがき

これが一応紹介はおわりにしたいが、奈良兄弟がぬけている。しかしながら彼らについては、奈良兄弟自身が「聖徒の道」一九六二年十二月号に書かれているので重複をさけるため省略させてもらうことにした。

この横顔はきわめて一面的であることは一読のもとに理解されることであろう。筆者の主観も入っていることであろう。したがって十分に紹介できなかつたが御容赦していただきたく思う。たらぬところは勤労奉仕宣教師に直接手紙で聞いてくださると彼らはよろこんで返事してくれることだろう。

彼らの働きに、そして兄弟姉妹の物心両面の援助に対して心から感謝し、祝福が豊かにあらんことを祈る。

伝道するため



田川幸子

(仙台支部)

私がバプテスマを受けてから、そろそろ六年になろうとしていますが、バプテスマを受けて以来私にとって一番大切なものは神に対する信仰であり、これをほかの人に知らせたいということが私の最も大きな願いでした。そして私の信仰生活の中でどれほどの人に真理を知らせ、また改宗させることができたかということをつりかえりながら、思い浮ぶままに数えあげてみましたら次のようなデータが出ました。

教会にさそったことがある人	35人
来なかつた人	20人
来た人	15人
(来なかつた人のうち四人はかなり強い関心を示し、また三人は来ると言った。)	
自分から求めて来た人(私に)	3人
間接にさそった人	1人
来た人 合計	19人のうち
家庭集会を受けた人	11人
バプテスマを受けた人	5人

(今教会に来ている人

4人)

私がバプテスマを受けて以来、日常生活の中で接しかなり深くまで話し合う機会があった人がおよそ百人位だったとしますと、そのうちのたった五%しか改宗させることができなかったということになります。そしてこのことから考えてみますと、伝道するということとは少くとも私にとってはそれほど簡単なこととは思われないのです。でも私は、これらの人々と神について話した経験から、殆ど誰でも人間としての自分の弱さを認めており、「真」なるものがあればそれにすがりたいという気持を持っているということを知りました。そして伝道するためにはどのようにしたらよいかということを考えてみました。

(準備) 真理を述べ伝える前にまず準備が必要だと私は思うのです。まず第一に必要なことは自分がそれに対して目を開いた真理についての信念をしっかりと持つことであり、そのためにはただ宗教に關することのみに限らず広い知識と深い思考が必要だと思えます。そして次に大切なことは、その信念に自信を持つことだと思えます。自信がなければ、他の人に伝えその人を導くことは出来な

いからです。そしてそのためには、他の人よりよく学ぶという態度が必要だと思ひます。このような準備をした時にはじめて伝道する事が出来ると思うのですが、伝道する際にも私達が注意しなければならぬことはいくらもあると思ひます。

(伝道するに当って) まず最初に、自分の心にある真理についての証詞を伝える時に、人間を恐れぬことが肝要だと思ひます。そしてそのために、どのように優れた人であっても自分だけの力で求めようとしたら、自分の頭だけで考え出そうとしても真理を見出す事は出来ないということを考えてみれば充分だと思ひます。次に実際に神について話す際に、それを信じていることや、又教会に出席することについて決して強制してはならないことは勿論ですが、感情的になつてもいけないと思ひます。いつも相手の立場になつてよく話を聞きいっしょに考えてあげることが必要であり、その人が教会に對しどのような反対の態度をとつても決してそれを間違つて居ると決めつけてしまつてはいけません。そして常に寛大な心を持つことが必要だと思ひます。真理に對する証詞が心に燃えている余り、つい一生懸命に教会に来ることを勧めたり聖典を学ぶことを勧めたりし勝ちですが、このような事は逆効果になる場合もあることを考える必要があると思ひます。何故なら、あまり考えていない人に、やいのやいのと勧めめる為にかえて反感を抱いて、面倒くさくて二度と考える気がしなくなるということがあると思ひます。人間はその人生の途上にあつて、誰でも必ず一度はそのような事について考える時があると思ひますが、そのような時に思ひ出してもらうことが出来るような、静かな良い印象を与えておくことが必要だと思ひます。又話す時には自信を持って話すことが大切だと思ひます。あまりに真理から離れ、神を知らない人々の多い社会に生活している私達ですから、自分だけで考えてみると確かだと思ひ、認めたいし、信じたいと思ひながらも、一度社会に目を転

ずると、その自分の考えていたことに自信がなくなつてしまふ、すなわち真理を認めるのに臆病な人が多いと思ひます。そのような人に對し、真理を話す時に、言葉と態度に自信に充ちたものを感じさせて導いてあげることが必要だと思ひます。又社会的な立場や、いわゆる教養に於て自分より上にあると思はれるような人々に接する時に、特にそのような人から反對された時に、私達は自分の言葉に自信を失ひ勝ちになるものですが、そのような時には、真理を話す自分は神の御旨にかなつたものであり、その見守りがあるということを知れば自信を持つことができると思ひます。

更に考えなければならぬことは、求道者は真理について知る時に、頭で得る知識からのみ認めるのではなく、いつも伝道する人の行動と態度を見ているということです。そしてそれが、その人の心に及ぼす影響が大きいということを考えれば、当然のことながら、私達ははつとめて真のクリスチャンとしての人格を養ひ、尊敬されるような人間になるようにしなければいけないと思ひます。心から信じ、自分にとって一番大切なものを恥かしめないためにそれは必要ですし、真理を知つた者の責任だと思ひます。

即ち、信仰の実践が必要であり、そしてそれはとりもなおさず隣人への愛を持つことであるという極めて抽象的な結論になつてしまつたようなのですが、私は、私の尊敬する指導者のおっしゃつた「何故、真理を話すことを恐れるのですか?」という言葉を忘れず少しでも多くの人に真理を伝えるために努力したいと思ひています

(一九六三、一、二〇)



支部だより

阿倍野支部

暖い日ざしと木々の緑が目にしみる季節となりました。兄弟姉妹の皆様お元気ですか、アベノ支部より久し振りにお便りします。支部では昨年九月より新支部長会が結成されました。

支部長 上野山研次郎
 第一副支部長 桂 鶴一
 第二副支部長 小島 敏夫
 書記 田原 慶三

支部長上野山夫妻はそれまで岡町支部で支部長として働いて居られましたがアベノ支部へ移籍され兄弟は支部のお仕事に、姉妹は日曜学校扶助協会等の教師として仲睦じく働いて居られます。若い会員が大多数の当支部です。支部長夫妻よりモルモン家庭の良さや有り方を身近かに教わって居ります。又主の恵みと宣教師の活発な働きにより御夫婦や家族ぐるみの会員も幾組か誕生し大小神権保持

者も多くなつて家庭的な雰囲気のもとに集会を開いて居ります。今迄の集会場二階ホールは百名位しか収容出来ず会員の増加と共に種々の支障をきたしましたので階下の四部屋をぶちぬいてアベノ支部自慢の？扇形ホールに改造しました。この改造は神権者を中心に兄弟たちが金紐をふるい、姉妹たちはささやかな軽食の準備に、それで物足りない姉妹は勇ましく金紐をふるい無事MIAに間に合うようフロアーをはるこち乱立している為パートナーと踊らないで柱とダンスをしている人も時々見かけます。又日曜学校では大ホールを姉妹お手製のカーテンで三つに仕切って分級して居ります。アベノ支部扶助協会では最近恵まれました多くの活発な姉妹を迎え良い集会を毎週(火)持つて居ります。そして三月十九日(火曜日)文学レッスン終了後扶助協会設立記念日を祝つてささやかなパーティを開きました。コーラスやゲーム等を楽しながら三の宮支部へ前日転勤されたミラー長老が出張教

授されたアメリカ式ケーキをいただき楽しい一時を過しました。二月の大会の時アンダーセン姉妹は「世界の女性の中でも扶助協会の女性が神様から一番祝福を受けています。そして一番多くの期待をかけられています」と話されましたが私たちは愛と信仰と一致協力とにより期待にそつう努力いたしませうね。

高橋富美子
 酒井 良子

金沢支部

三月十七日扶助教会創立一二一年を迎えて祝賀パーティを致しました。

神権者たち又、未来の扶助協会会員たちと共に御赤飯をいただき乍ら、亀井姉妹から扶助協会創立とその目的について話があり、ジョセフ・スミスの生涯のレッスンをうけました。

又雪見舞品を方々からいただき、紙上をおかりして感謝と、お礼の言葉を申しあげます。

松本支部

春がすぐ近くに訪れている時節です。

二日はYMCAが主催した映写会が催されました。昨夏、松本市長がソルトトレックを訪問された時に撮られたフィルムで、大管長会の方々との会話や、リー市長さん歓迎風景などが収められており、姉妹都市としての親交を一層深める事が出来ました。

十三日はMIAでキッチンカーニバルが開かれ、先づ討論会で家庭に於る男性の仕事、女性の仕事テーマにされて論争(？)が繰りひろげられ、兄弟姉妹どちらもゆずらずついに時間切れ引き分けというところでした。つづいてエプロンショー、各自の工夫により珍しいものが登場、大管長の写真の載った新聞を使って、「これは大管長の『よだれ掛け』のカタログです。』と喋る兄弟が首からたらし居たり、エプロンいっばいにコマーションを書き綴って宣伝を兼ねたもの、包装紙を沢山貼り合せたエプロン、はては昆虫にでも丁度良さそうな細かなエプロンまで出現しました。終りに持参の野菜が充分煮込まれたのでそれを食べて帰路に着きました。毎日御厄介になっている台所について一部でも理解がなされたわけです。

十六日は日曜学校が主催、他の組織の協力でビッグパーティが開かれました。松本支部が毎月行っている食事に趣向を加えて行われたわけです。食堂同様にチケットを買ってウエイトレスに食物を運んで貰って食べると言うわけ、一方で演芸が催されて食べながら観る事が出来る。手品や歌、途上にコマーションが入ってバザールの販売宣伝、おかげでバザールの品物も売れ行き良く、初めてのバザールも成功でした。このパーティの為に一ヶ月間計画と準備を積み重ねて、松本支部の資金獲得に望みをもたせて下さった兄玉兄弟は当日学校で卒業式を終られて会の進行を勤め、加えて兄弟姉妹多数の協力によりパーティは

成功のうちに終りを遂げました。ビッグパーティを通して会員の協力が支部の発展を証明していること、資金獲得も容易である事を感じました。

二十一日は祝祭日を利用して、支部内の障子や襖の張り更えをしました。沢山の障子も朝から始められたので、夕方にはすっかり張り更えられて部屋の内を明るくしてくれました。又兄弟二人で靴脱ぎの眼すき板を作り、一段と建物内が立派になった感じがです。午後パプテスマの儀式が行われました。パプテスマを受けられた高山やよい姉妹は、今朝深志高校合格の栄誉の報告を受けたばかりで、二重の喜びに満ちていました。夜、さっぱりした部屋の内、スライド「キリストの生涯」を、鎌倉兄弟が致しました。二月にも観せていただいたカラスライドとい、今回のカラスライドと共に私たちの信仰を一層深めるもので、会員ばかりでなく求道者にとってるもので、会員ばかりでなく求道者にとってるもので、キリストの生涯を眼前に感じることが出来ました。他の支部の皆様にもぜひおみせしたいものです。

春になれば、冬眠から覚めた昆虫が外に飛び出してくるが、同様に松本支部からも数名の会員が発散して東京へと就職学業につかれています。何処にても主の教会は一つであり、モルモンとして御国建設の為に最後まで頑張ってもらいたいものです。移動会員は
兄玉栄治 青柳弘一 神山英夫
佐藤文俊 上条勝弘 藤井房江
です。これによって支部内の組織役員が交代

します。まず日曜学校役員が十七日新しく支持を受けました。実際に変更になったのは会長のみで他は再任されました。

日曜学校会長 鎌倉希州兄弟
他の役員は聖徒の道三月号をご覧下さい。
神権聖任者

執事 熊谷茂雄兄弟
執事 伊藤勇夫兄弟

三月にバプテスマを受けられた方

高山やよい姉妹
村田富美子姉妹
安部 定子姉妹

以上の三名の姉妹です。

カーター長老が帰国されて、新しく支部長としてライザー長老が着任されました。

名古屋支部

三月十日には地方部の役員の方々が全員、名古屋支部に出席され(名古屋支部出身の人も含めて八人)聖餐式のときなど、その方々の話が聞かれて、まるで小さな地方部大会のようでした。その日には四人の兄弟が、アロン神権の執事の職に按手聖任され、二人の兄弟姉妹がバプテスマを受け、暖い春の陽ざしの下にとてもよい安息日でありました。

三月十四日にはMIAのプログラムとして「花嫁と花婿の夕べ」が開かれました。土田勝兄弟の執行のもとに、河村裕子姉妹と青山宗平兄弟が模擬の結婚式を挙げました。花嫁のお父さんには山本修兄弟になっていただき

介添には大鷹光子姉妹と日坂潔兄弟になっていただきました。八木沼悠紀子姉妹のオルガン伴奏のもと、無事に幸福そうな新郎新婦が誕生しました。式の後柳田聰子姉妹に形だけの新郎新婦の門出を祝して歌が献げられ、その後で、土田準子姉妹の司会によって結婚をめぐって討論会が行われました。皆、この会を通して、この教会に於ける結婚について深い理解を持つことができたようです。

三月二十三日には「兄弟の集い」（神権ゼミナー）が支部長会の主催のもとに開かれました。これは、第一回の集りで今後三週間に一回位の割で八回に亘って開かれる予定でこの八回の集いで熱心に神権について勉強された兄弟たちには、支部長の面接が行われ、資格のある人には神権昇進又は授与の機会が与えられるでしょう。四月六日には第二回の集いが開かれ、なごやかな雰囲気のもとによく計画された神権のレッスンが行われ、閉会后スライド等を楽しんでとても有意義な土曜の夜が過ごされました。

三月十二日、金沢支部からレックス・A・リチャーズ長老がグローバーク長老の後任として名古屋支部へ転任して来られました。グローバーク長老は三月十四日の朝、伝道を終えて両親がいらいらしている東京へ向けて出発しました。なお彼は両親と共にアメリカへ帰るまでアジア、ヨーロッパを旅行して帰る途中で、その途中、十七日に名古屋支部に出席されました。今頃はインドあたりを歩いているのでしょうか。

名古屋支部には現在二百三十人余りの会員が居ます。毎週六十人余りの会員と十人余りの求道者が出席しています。各人それぞれ熱心に、永遠の幸福を求めて働いていらつしゃいますが、様々なつまづきに会って、真直ぐな細い道からはずれてしまふ人も多いのは残念です。私たち皆が、お互いに励まし合ってお父様のもとに帰るよう努力したいものだと思います。

西 宮 支 部

ようやく春の訪れです、休日ともなれば、仁川つたいにピクニックの列が続くのも、そう遠い事ではないでしょう、当支部でも三月廿一日春分の日には甲山ピクニックを計画しました。幸に素晴らしいお天気で小春日和りの一日を楽しく過す事が出来ました。

○三月廿七日（ゲリーM.パルマ長老御出発）
いつの世にもお迎えする楽しさに比べて必ず来るお別れは悲しいものです、それが再会の可能性が少い外国の方となると尚更の事でしょう、日本に來られて二年半、五つの支部に於て活発な伝道を終えられた当本部を最後にいよいよ帰国の途につかれました、特に機智に富んだ明るい長老として彼の残された楽しいエピソード又その功績は少くありません。会員の家庭を親しく訪問され狭苦しい部屋でスマートな足を曲げ窟屈な姿勢で長時間熱心に伝道された事もありました。本当に長い間御苦勞様でしたと感謝の気持ちを一パイ込めて

廿八日の朝ホームに集った会員たちの顔はどれも一様に複雑でした。皆様がこの記事を手びされる頃はもう彼は両親のもとで新しい生活がはじまって居る事でしょう、彼が最後に残して行かれた言葉をこの紙面を通して御紹介しましょう。「皆さん終りの日迄変る事無く忠実であって下さい、どんなに小さな責任でもそれを果す事に依って一足づつ成長するので、又実行する事の出来ない責任を神は決して私たちにお与えにはなりません」という事でした。本当に宣教師らしい立派な宣教師として、その骨も砕けるかと思われる様な強い握手とともに私たちの記憶にいつまでも残るでしょう。

○三月廿九日（池兄弟結婚式）
当日岡町支部に於て池兄弟の結婚式が行われました。この素的なカップルは、当支部最近の明い話題の一つでした、彼の持つ強い信仰の力できつと素晴らしい家庭が築かれる事でしょう。

岡 町 支 部

三月二十日午前十一時から扶助協会の誕生記念、和歌山へいらつしやる音姉妹の送別及び今年高校大学を卒業又は入学なさった会員求道者（男女を問わず）のお祝い（この方々は会費無料）を兼ねてパーティーが開かれました、会長の秋元姉妹が急病のため渡辺八重子姉妹の司会で新年の若い人たちの紹介や巡回宣教師の美しいデューエット、そして各々が

腕をふるって持ち寄ったのり巻きとサンドウイッチ、ジュースをいただき楽しいゲームでこの意義深い会を閉じました。

三月二十三日、日曜学校主催のやみなべ会が行われました。皆の持ち寄った材料をグループに分け煮えた頃電気を消して真暗な中で各自が自分のお皿にとるのですがその賑やかな人は御想像のとうり、ガメツイ人、遠慮深き人やお皿を見てわかる通り、中にはコンニャク二切しかないヤマトナデシコも居りました、食後は長老たちや会員の寸劇にお腹をかかえて時のたつのも忘れる程でした。

四月五日 建築資金募集のためのタレントショーが歓迎委員会、宣教師の共同主催で開かれました、楽器店の支店長である阪本支部長の御好意によってピアノが運ばれ、ピアノ独奏、独唱、コーラス、バレエ、日舞、長唄、寸劇その他よく集められたと感心する程多くの素晴らしいプログラムでした、今さらながら我支部にタレントの多いことを感心したり喜んだり……、予想を上まわる非常に多くの出席者を前にしての熱演はどれも大好評、五十円也の会費が安過ぎたとは出席した者の意見でした、だんだん建築資金も増え又、学会が発展して行っていることは本当に喜ばしいことです。

小樽支部

三月二十一日春分の日午後六時より小樽支部に於いて、アップルパイ、ダンスパーティーが

行われました。アップルパイは、支部長一人の手によって作られ少数の姉妹がその製作のために、早朝から働いてくれました。会費一五〇円で、デザートにアイスクリームが付く、という、デラックス？でした。パイの始め頃は、大変人数が少なく、さびしい感じでしたけれど、フォークダンスや社交ダンス等をして時間が過ぎて行くうちに次第に人数もふえて五十人近い兄弟、姉妹が参加してきました。又、兄弟、姉妹がダンスを踊っている所を、ロムニー長老（現在東京南支部）やステイブソン長老がフィルムに納めて居ましたが、出来上がったプリントを見ると、ほほえましい笑があふれてくる、といったの也有ります。とにかく楽しいパーティーでした時間も三十分超過しましたけれど、この会に於いて、兄弟姉妹そして求道者がより強く親みを感じた事と思えます、これからは、会費をもう少し安くして誰でも、気軽に来る事が出来る様に。そして新しい小樽支部建設により多くの兄弟、姉妹の力を借りる事が出来る様に皆で協力して行きましょ。

鮫島邦彦兄弟東京へ
三月十七日四年間の学生生活を終え、就職のために札幌支部を離れて東京に帰ってゆきました。

大学一年目の夏にバプテスマを受けてから地味な努力と誠実な奉仕を続けて短期間の内に長老の神権を与えられそれにふさわしい生活を会員に示しをくださいました。

送別会では彼をたたえる言葉と感謝の言葉ばかりでした。東京のみなさん札幌支部が育てた立派な彼を見てくださることを支部のほこりにも感じるほどです。また婚約を発表されました。支部一同心から彼と彼女を祝福しております。婚約者は三好邦子姉妹、とても女らしい人で彼のためのみならず教会のためにもつくしてくださると思います。三好姉妹は当分札幌支部であずかることになっていきます。一日も早く結婚できましょように。

東京南支部

いい春ですね……。
みなさん今日はお元気ですか。私たちはみな元気にやっております。庭の所々には八重桜が咲きほこりとても美しいです。夜は時々その桜の花を通して洗足池に映った春のおぼろの月をみる事が出来、なんともいえない美の世界に、平安の世界に私たちを案内してくれます。

三月は春季大会が有り各支部のみなさん、特に地方のみなさん御苦勞様でした。この日

札幌支部

南支部は別段変わったことは有りませんでしたが、ただ一回もバプテスマがなかったことが変わったといえれば云えるでしょう。では各組織のみなさんに登場してもらいましょう。

日 曜 学 校

MIAは二年位前からプログラムを印刷して配っていましたが、日曜学校も今日から始めました。これを作っている問題になるのは急に変更がある時です。すでに印刷済みなのでちょっとまけてしまっています。でも今迄の様にいちいち黒板に書くよりはずっと感じが良いです。表紙にはいつも聖句が書かれていますのでこの聖句をメイン・テーマとしてこの一週間を過すのも非常に意義有ることと思えます。

教師養成の意味も含めて一般会員の級は毎週有意義な研究発表を行っております。テキストは、奇しき御業で、すでに一月に全課が各自に割当済みなので十分研究が出来ます又各々得意とする所も有るので、個性の有る又時には有意義な講義をきくことが出来大変おもしろいです。この方法だと聞き手は勿論のこと発表する人も種々な文献から研究しなければならぬので信仰の大いなる助けとも成り仲々良い勉強方法です。参考までに現在行なわれている級は、初めての方、一般求道者、中学生、高校生(十五〜十八才の方)、一般教員、系図ともう一つ加わって計七級です。こんなわけでレッスンの時間は支部長会室を除いては全ての部屋が使用中となる大盛況ぶりです。

会長会は先月号でも紹介した如くみんな学生ばかりでおいに張切っています。みなさんもよろしく……。

M・I・A

三月中に行った主な行事は次の如くです。三日にファイアサイド会、二十一日に春の登山、二十三日に親睦会、三十日に映画鑑賞会です。この中からいくつか選んでかいてみましょう。まずファイアサイド会では第一部が「天国と地獄」についての主な各派の考え、信条等の講義が坂本兄弟から有り、第二部は各自持参のアルバムを交換してみる時を持ちました。面白いのが沢山出て来思ひ出話等にふけりました。中には年代こそはなれていてもそれ等の写真を通して今まで普通につき合っていた会員同志が同窓生であることを初めて知ったと云う場面も有りました。

二十三日早朝四時半頃起きて上野駅へ新潟支部のみなさんを迎えに行った小高、坂本兄弟、青木姉妹の前に現われたのは前南支部にいたグリフィス長老を先頭に二十二人の兄弟姉妹たちでした。余りの多くでおどろいてしまいました。彼等も例にもれず若い人達がほとんどでした。しかも元氣さとかざり気の無い美しさは東京の人達には一段とまさっていた。二時からMIA親睦会が始まりました。集った人々は新潟、横浜、南で約五十人。普通のMIAの通り行なわれ一部を変更してフォークダンスとゲームで二時間を楽しく過しました。途中、暖かい日がさす庭で参加者皆で記念写真を一枚。再度集まり、高校生、大学生、一

般の方もホールせましとフォークダンスを、何と表現してよいかわからない位楽しくやっで終りました。うまく説明出来ませんが参加して下さった一人一人は心の中に美しく美しく表現出来ると思えます。いずれにせよ三支部ごちやごちやにゲーム、ダンス等をやりましたので非常に親睦をはかれ楽しく良い思い出の一つと成りました。私達今度の機会にもこの様な会を是非持ちたいと希望する次第です。MIA全国大会も開かれるとのことみんなモルモンとして心一つにして御国建設の為に頑張ってください。

ではみなさんくれぐれもお体を大切に。主の御恵みみなさん方の支部の上に多くあることをお祈り致します。

では又来月お逢いいたしましょう。

さようなら

伝道本部だより

バプテスマ 一九六三年四月

阿部野

福青

林中

山

旭

高浜

福

野

沼

佐

豊

戸

群

神

坂

坂

広

永

杉

徳

都

野

田

村

川

口

岡

田

野

永

崎

馬

戸

野

野

野

島

山

井

永

築

博

恭

美

弥

和

桂

智

芳

弘

義

幸

睦

ふ

弘

弘

上

上

勝

勝

左

成

幸

代

子

子

子

子

子

子

道

眸

雄

江

子

子

子

正

彦

門

子

幸

成

代

子

子

子

子

子

子

子

道

眸

雄

江

子

子

子

正

彦

門

渡

金

谷

谷

甲

雨

星

犬

犬

高

京

松

古

神

仲

管

名

伊

水

丹

新

谷

村

村

府

宮

野

尾

尾

橋

都

本

島

幡

山

野

屋

藤

野

羽

井

瀧

一

其

惠

勝

芳

勝

惠

澄

靖

榮

千

純

昌

光

代

重

美

井

美

代

瀧

男

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

福

清

石

宮

西

宮

大

岡

岡

田

橋

黒

森

安

荒

川

瀬

藤

尾

谷

新

島

田

野

山

沢

沢

沢

水

水

水

小

西

田

上

若

渡

宮

西

宮

大

新

チ

美

恭

泰

洋

章

七

正

新

保

昌

憲

直

太

倫

信

治

幸

今

真

智

ヨ

徳

二

守

隆

子

子

子

隆

一

茂

英

洋

子

子

子

子

子

子

子

子

徳

二

守

隆

子

子

子

隆

一

茂

英

洋

子

子

子

子

子

子

子

子

子

高

梅

植

山

仙

片

加

塚

塚

京

吉

河

松

中

佐

鈴

高

渡

荒

野

坂

倉

原

田

幌

山

台

本

原

藤

桐

原

京

中央

「什分の一の祝福」

主よって定められた什分の一の支払いは約束を伴った誠命である。

この「什分の一」を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。

教義と聖約 六十四〇二十・

万軍のエホバいひたまふ我わが設くる日にかれらをもて我宝となすべし。

マラキ書 三〇十七

また汝はうるはしき冠のごとくエホバの手にあり、王の冠の如くなんじの神のたなごころにあらん。 イザヤ書 六十二〇三

この約束は非常に確かなものである。

什分の一を納めることは、この律法を忠実に守る者の生活に達成されるであろう二つのことに特長つけられる。即ち

(一) 断つ事の出来ない銕接力を以って、その人を教会に結び付ける。

(二) その人をして主のつれあいとする。

什分の一支払いは信仰の信頼出来るテストである。信仰の弱い者、又教会から脱落する者は什分の一を納める人でない。什分の一

払の誠命以上に信仰を強める誠命はない。この律法を固く守る事は自身に打ち克つことである。我々は時として世の財宝を出し惜しむけれども我々が一たび我々の財産を主に捧げる信仰の決断をしたら、献身の念が強くなって、進んでこの原則に従うようになるのである。これは我々を教会に安定させる確実な道である。これは又教会に於ける我々の靈的狀態を確保する方法である。

我々は大きな施設及び会社がその将来に於ける保証を、確保する目的で提携しようとする時代に生活している。什分の一支払いに於いて、主のつれあいとなって主と共に安定する、有利な機会を持った人の為には大いなる将来がある。この方法によって我々は教会堂、神殿及び学校等建築の積極的な参加者となるのである。

この機構によって多くの困苦が救われ、大いなる教会の伝道計画が進められているのである。これ以上に善を産み出す財政計画が果してあるだろうか？

什分の一を納めない人でも富を造るかも知れない。けれども彼らは宗教的な生活、神へ

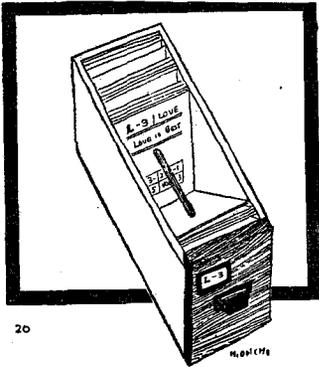
の信仰、価値ある奉仕からもたらされる喜びをすべてその富から締め出してしまっているのである。これに反して什分の一を納める人は、稀に見る喜び、心の平和、主との調和の確信、決定的な安全感、又安定性の確信をもたらすのである。これ以上、何が望めるであろうか？

什分の一を納めることによって我々は従順の原則の一面をも成就しているのである。

これに関して主は次のように言っている。
見よ、誠にわれ汝らに告ぐ。この目的のためにはわれ汝らを遣わせるなり。……そはすなわち汝ら従順ならむがため……。

教義と聖約 五八〇六

系図の道しるべ



20

寺院関係書史料

どんな寺にも過去帳があり、また位牌があり墓石が残っています。全国の有名な寺院では歴代の過去帳を保存している寺院もありますが、普通の寺院では壇家の中の勢力ある者の過去帳の古いものを複写し勢力の無い者の過去帳はなくなっている場合が多いので、一般庶民の過去帳で徳川以前に及ぶものは稀であるそうです。

この事は徳川三代將軍家光以前は、信仰が自由であったために壇家と寺との関係が密接で無かった為であります。寛永年間から後になりますと、徳川幕府は切支丹を迫害する政策をとった為寺院を保護して、武士、町人、百姓の信仰を嚴重に監視し、寺院の側でも壇家の過去帳の保存に注意を払った事に原因しております。墓のようなものも同様であって、よほどの名家であっても古い墓を求める事は甚だ困難である状態であります。また寺院に保在されている造営、寄附等に関する文献等を参考となる場合が多いのです。

神社関係史料

神社にも系図史料が発見される。文献記録

のほとんどが現在では旧家（神主の家柄）に伝わっているのでその家について調べなければなりません。ことに特種の氏と関係をもつ神社には珍らしい系図を保存している事がありません。また、社家（神主の家柄）には名族が多く貴重な史料を発見する事が数々あるそうです。（歴史学者の話）

村関係史料

検地帳（田畑の測量に関する帳簿）等の村に伝わっている文書、記録、また村によっては村鑑（村の歴史）などの編集物の残っている所があります。これは系図研究の貴重な史料であります。もっと大切なのはその村全体の沿革を調べる事です。一般の人民は封建時代にはよほど古くから一定の場所に居住し近隣の人々と結婚して住みついておりますから、系図や家伝の記録に他国から移住して来たなどある事がかえって偽りである場合が多いのです。従って村と村民との関係は極めて密接なもので村の沿革がはっきりすれば、その村の人々の系図も大体見当がついて来ると云ってもよい。この意味から云っても村の神社、寺院、その他の遺蹟遺物を充分に調べる必要があります。（石井正道）

子供の日曜 学校ガイド

5 月 用

新しいテキストを使って、それぞれ楽しくレッスンをさげていることと思います。六月は虫歯予防デーがありますネ。レッスンの他にも、その月々の特に大切な行事、偉人といわれる人の誕生日とかをETC、子供たちに教えてあげることも一つの先生と子供たちとを結ぶ橋であるように考えます。

紙芝居について

一、守っていただきたいこと

a、カバーに明記されていることをよく読むこと。

b、次の支部に郵送する時同封の厚紙を必ず入れること。

c、回覧するのですから大切に取り扱い扱うこと。

d、各支部をそれぞれ廻ってきて最後にあ

二、種類

あなたの支部の番になったら、それはあなたの支部に保管してください。

a、次の紙芝居は二部づつあります。東地方部、西地方部（沖繩を含む）ともに一部づつ廻っております。

- (1) おかあさんありがとうございます
- (2) おひさま こんにちは
- (3) 夢みるヨセフ
- (4) ノアのこう水
- (5) ダエニル物語
- (6) おさなご サムエル
- (7) 二人のむすことおとうさん
- (8) 一つぶのむぎ
- (9) ビート・パンクの物語
- (10) エステル皇后
- (11) よきサマリヤ人



(12) ロバの子
b、次の紙芝居は一部づつしかありませんから全国を廻ります。

(1) この人をみよ（シユバイツァーの生涯）
(2) いい子でしよう。

三、同封の一枚画（子供の祈り）は各支部にさしあげます。廻覧する必要はありませんここにあげる物語は「なぞなぞ」式のもので最後まで答は出てまいりませんが、これを聞いているうちに、それは何か自然に子供たちの頭に浮んでまいります。

やさしく書きましたから一年、二年生に読んでもらって答を考えてもらいましょう。

ジョージは何をもっているのでしょうか。

ジミーは七つです。とてもげんきな子でもで、七才にしては、からだも大きいほうです。ジョージは小さな赤ちゃんと、生れてから八ヶ月しかたっていません。

ジョージはがっこうにいていません。だって、小さすぎますもの。

ジミーとジョージは兄弟です。二人はともよくにいていますが、ジミーのほうがはるかに大きいです。

ジョージが家にきたとき、あたまのかみもなく、ほもありませんでした。それはそれは小さな赤ちゃんだったのです。ジョージはだれにもにいていませんでした。そして、なんにも一人ですることができません。ジョージのできることは、ただ泣くことでした。

すわることも、ねがえりをうつことも、ボールをつかむことも、自てん車にのることもできなかったのです。

「ジミー、あなたも赤ちゃんのときは、ちょうどジョージとお母さんがこうおっしゃいました。ジミーは考えました。」

「僕はジョージのように口がきけなくなかった。きつといまに、ジョージも大きくなるだろう。そのときまでまっていよう」と。

ジョージはかみものび、すわることもおぼえて、だんだん大きくなってきました。そして、ジミーの顔もわかるようになったのです。ジミーは、「ジョージは、おしではなかった、小さな赤ちゃんだったんだネ」とわかりました。

ある日、お母さんが「ネエジミド、ジョージが何をもっているかあててごらんなさい」といいました。

「ジョージは大きな犬をもっているの？」お母さんは「いいえ、犬よりも、もっと小さいのですヨ」と答えられました。

ジミーは考えました、とうとう「それはハツカねずみでしょう」といいました。

「ジミー、あなたは何かちがうものを考えているわ。それはネエ、動物ではないのヨ」とお母さんがおっしゃいました。

「じゃ、自てん車？」

ジミーは、ジョージが何をもっているのかわりたくてなりませんでした。

お母さんは、静かに首をふって「それは、

自てん車よりも小さなのですヨ」

ジミーは考えました。そして、とうとう、こういいました。「それはスクーターでしょう」

お母さんは「オヤオヤ、あなたは、またちがったものを考えているらしいは、それは乗ものではないのヨ」といいました。ジミーはまた考えました。いったい何をもっているのだろう。「それはジョージが好きなもの」とお母さんにたずねました。

「ええ、ジョージもそれをもちことができてもよろこんでいるでしょうヨ」とお母さんが答えました。「キャンデイかしら？」

「いいえ、キャンデイではなくってヨ、でもジョージがキャンデイをたべるとき、それはたすけてくれるわ」とお母さんがいいました。「お母さん、僕もそれをもつことがある？」とジミーはたずねました。

「ええジミー、あなたは今それをもっているわ、しかもジョージよりたくさんネ」とお母さんがおっしゃいました。

「僕がネエ？ いくつ位もっているの？」とジミーはたずねました。

「十ぐらい上の方に、そして十ぐらい下の方に」とお母さんがいいました。

ジミーは、すっかり考えこんでしまいました。足に十ぼんのゆびがあるけど、それはジョージだつて、もっているし」

「ええ、ジミー、だんだんちかずついてきたわ」とお母さん。

「上の十と下の十とで僕は何をするの」

「あなたはそれと一っしょにかんだり、きつたりすることが出来るわ」とお母さんがいいました。

「じゃ、僕はどこにそれをしまっておくの」とききました。

「それは小さな箱の中にしてしまっておくは」とお母さんが答えました。

「それは、どんなふうなもの」とジミーはきいてみました。

「それはまっしろで、とてもすべすべしていてよ、そしてとてもかたい」

ジミーはよく考えてから「僕はそれを大切にせわしてあげている？」といいました。

「ええ、お母さんがちゅういした時にネ」

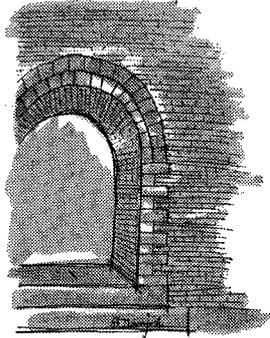
「どうやって、僕はそれをせわしているの？」

「あなたは、まい朝、まい晩、それをみがいてあげるは、たくさんピタミンをとったり、たくさんミルクをのんだりして。あんまり、キャンデイをたべないようにしたり、あんまりのみのをのみすぎたりしないようにしてネ」

「アッ、わかった、ジョージが何をもっているか、僕わかったヨ」

サア、ジミーは、ジョージが何をもっているかわかったようです。

あなたはわかりましたか？



4 月 用

全国日曜学校大集会予告

三月号の聖徒の道でM I A全国大会についての記事が載りましたが、八月二十五日(日)を伝道部日曜学校で計画してよろしいと伝道部長より許可されました。この日はM I A大会に集った全国の兄弟、姉妹、お友だち及び全国の日曜学校指導者を中心に日曜学校大集会を開きます。

大体のプログラムは次の通りです。

日 一九六三年八月二十五日(日)

場所 東京北支部新築会堂

九、〇〇〜十、〇〇 神権会

長老——堀田第一長老定員会会長

アロン神権者——佐藤泰生アロン神権指導者

神権を持っていない会員——今井東中央地方部長

お友だち——佐藤竜猪東中央地方部評議員

扶助協会——阿部千枝子扶助協会役員

十、三〇〜十二、〇〇 日曜学校

A、B、C、D、Eコースに分れてレッスンを行う。先生は伝道部日曜学

校会会長、及び系図委員会が担当し模範的な教え方を示す

十二、一五〜一、三〇 聖餐会

聖さん式及び伝道部長等の話

二、三〇〜四、〇〇 日曜学校指導者会

四、三〇〜六、〇〇 音楽とスライドの夕べ

東中央地方部音楽委員会、日曜学校主催

その他詳しいことは次号に譲りますが、皆様方と楽しい一日を送るよう計画していききたいと思います。一人でも多くの方がこの会に参加なさいますよう準備して下さい。

伝道部日曜学校会会長

絵などの注文

東中央地方部の支部には既にお見せいたしました。ユタの本部より送ってもらった絵フランネルグラフなどの資料を五月の大会のとき、西中央地方部の支部の方々に、八月の大会のとき、北海道地方部の支部の方々に展示いたします。そのとき注文紙も一緒に配りますので支部に帰ってから支部長会の方々と相談して予算の許す限り予約して下さい。予約は上野あての封筒に注文紙を入れて五月の末まで（第一次）と九月の末まで（第二次）のどちらかを選んで下さい。第一次の申し込みの品は八月までに、第二次の申し込みの品は十一月までにお送りいたします。そのときに代金は伝道本部の方へお納め下さい。

練習の歌 三十六番

一段から折り返しのところまで、三拍子で歌いその後は $\frac{3}{4}$ で歌いますから、そこを注意すれば特別むづかしい歌ではありませんが、指揮をする時に拍子の変わったのを忘れないで下さい。

六月 二四二番

母の日 三十九番

五月の第二週は母の日ですね。それで先月号に三十五番と予告しましたが、三十九番の母の日に変更しました。

日頃は親の愛を空気の様に感じて特別な事がないと有難いと思わなくなっている私たちに母の日は本当に大切な日だと思えます。子供たちに母の愛を感謝する様よく教えてあげましょう。

この歌の楽譜はわりあい歌いにくい様です。音の上り下りがはげしいからです。ピアノ又はオルガンで音を正しくとる様に練習して下さい。

二拍子の歌ですから四拍子で歌わない様にしましょう。四拍子で歌うとテンポが遅くなってしまいます。活き活きと感謝にみちて歌

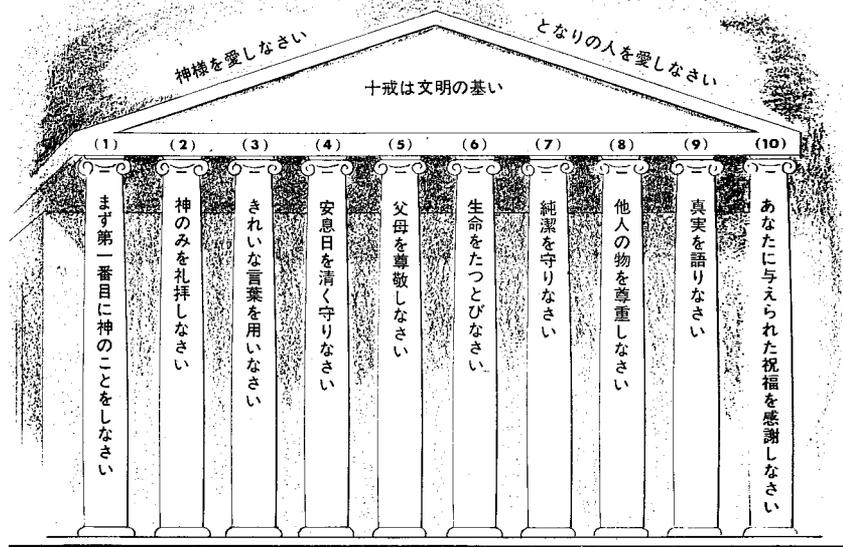
う様にして下さい。

この歌を覚えてしまいましたら、お母さんに関係ある他の歌をプリントして歌っても楽しいと思います。

六月 三十五番

練 習 の 讚 美 歌

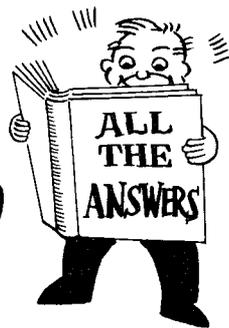
近代に生きる十戒



モーセに与えられた十戒

- (1) あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない
- (2) あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない
- (3) あなたは、あなたの神の名を、みだりに唱えてはならない
- (4) 安息日を覚えて、これを聖とせよ
- (5) あなたの父と母を敬え
- (6) あなたは殺してはならない
- (7) あなたは姦淫してはならない
- (8) あなたは盗んではならない
- (9) あなたは隣人について、偽証してはならない
- (10) あなたは隣人の家をむさぼってはならない

MIA Leader



MIAの手引き

YWMIA指導者

佐藤 栄子 記

この北部極東伝道部のMIAも大変進歩してまいりました。そこで八月の全国大会を機会にMIAの組織を一段と進めて、完成に近づきたいと望んでおります。各支部でも末日の宣教師の方々の熱心な伝道によりまして、多くの兄弟、姉妹を迎え、神の御国の建設の働き手が沢山になって来たことでしょう。支部内に、しっかりとした組織を作つて風雨や苦難にびくともしない礎を置き、更に多くの兄弟、姉妹をむかえる準備をなすべき時だと思ひます。そこで今月から何回かにわたつてMIAの組織についてすこし書きたいと思ひます。新年度には「MIAの手引き」も出版されるはずで、また、新年度からは会長会の組織も変りますし、新しい年令別クラス「ヤング・マリイ」も開かれる予定です。また、数々のスポーツ・プログラムも予定されております。全世界のMIAレポートを見る時、人数の上では、この北部極東伝道部は決して小さいMIAではありません。

しかし、内容的に質的に見た時、はたしてレポートに示された数字の人たちがどれだけ充実した会を持ち、それに参加しているかと考えると疑問の点が多々あります。もちろん私たちがMIAの指導者としての責任を充分に果していないことを反省しております。ここに、皆様と共に「MIA」に対して理解を深め、大いに会の充実をはかりたいと思つております。そして、MIAを通して上向きな現実立脚した信仰生活を学びとって行きたいと思ひます。

もうすぐやつて来るMIA全国大会に、私達の意気と団結を示し、証し会に於いて強い証詞をのべ、若人モルモンの姿を多くの人の前に見せたいと思ひます。全国MIAの会員の皆様一人一人がこの北部極東伝道部のMIAの強力な組織の一人一人であることを自覚して下さい。

今月はまず左記に示した表によつて、支部のMIAの組織が教会全体のどのような組織のもとにあるかを理解して下さい。

左記の表の矢じるしは管理と指示の系統を示しています。現在伝道部MIA指導者は、佐藤襄二兄弟と佐藤栄子姉妹です。地方部MIA指導者は西中央地方部、田口広道兄弟・

田口鈴子姉妹です。東中央地方部は、中東幹夫兄弟と島田邦男兄弟です。北海道地方部と沖繩地方部にはMIA指導者はおりません。第二副地方部長がその指導にあたられております。

五月二十三日「やってみましょう」

ローレル・クラスでこの会を開きます。ローレルは、将来良き扶助協会となるべき人達です。そこで今夜は、扶助協会のお仕事をやっているものを少し勉強してみましよう。大人の人たちがやっていることを、貴方も「やってみましょう」ということですね。

ローレル・クラスの人たちの意見も聞いて簡単にやれる手芸や、衣類のつぎあて、ボタンのつけ方、ソックスの修理等のお仕事を選んで下さい。次に幾つかのお仕事を提案致しますので、その中から選んでも良いでしょう。

一、手芸

レース編の方法、毛糸編の方法、日本刺しゅう、フランス刺しゅう、スエーデン刺しゅうの方法、カットウォークやドロウウォークなど。
簡単なアップリケをやりながら、ふきん

を作ったり、なべつかみを作る。

モザイクの手芸、チグサ編等。

二、衣類のつぎあて。

三、ソックスのつぎあて。

四、ボタンの上手なつけ方。

五、簡単に出来るエプロンや枕カバー。

六、更生品や廢物利用等。

その他、まだまだあるでしょう。活動の時間も含まれていますので、良く準備して手順良く指導して下さい。ただ無駄に時間を過ごして終わってしまうことがない様に、クラス・リーダーはよく準備し早くから発表して下さい。

五月二十三日「活動計画Ⅲ」

Mメン・グリーンナー・クラスに於いて三回の活動計画がありましたが一貫した何か有意義な成果があったでしょうか。今回は最後です。クラスの先生は結論を出して、活動計画のしめくりをして下さい。

六月二十七日「楽しい今宵」

エンサイン・ローレルの主権するパーティーですから、Mメン・グリーンナーの人たちはどんなパーティーをやるのか楽しみに待って

いるはずですよ。

エンサイン・ローレル・クラス・リーダーはこの夜の直接の責任者となります。しかし各MIA役員教師は協力をお願いします。エンサイン・ローレルの人たちは、早くから計画をねっていたことでしょう。今月(五月)に入って早速具体的な段取りを進めて行きましょう。貴方の支部では、どんなパーティーを開く予定になっていますか?

ある支部では、ダンス・パーティー、或る支部では、ゲームによるパーティー、また或る支部では、模擬店を出した園遊会、等色々あることでしょう。各々が自分の支部の条件集っている人たちの年齢等によって工夫したパーティーを開いて下さい。エンサイン・ローレルの方々は、クラス・リーダーを中心に皆で役割りに参加し、早くから準備に取りかかって下さい。YM・MIA会長は、エンサインの、クラス・リーダーとして全体の責任者となります。

日頃MIAに参加していない支部の人たちにも招待状を送り、六月の美しい宵を楽しく共に過ごす様に誘って下さい。 榮子記

私達のMIA



MIA指導者より先月号の北支部について
 東京北支部には近いので、時々出席させて
 いただいております。狭い講堂いっぱいの人
 があふれ、若い人たちのエネルギーが集会所
 からはみ出している感じがします。北支部のMIA
 の現在の問題は何と言っても集会所の狭さ
 です。見ていて気の毒なのは、年令別クラ
 スのレッスンの時です。狭い講堂でMメン・
 グリーナー、舞台の上でエンサイン・ローレ
 ル、そして舞台裏の四畳半位の所で初めて来
 た人々のクラス、舞台と講堂では幕一枚をへ
 だてて各クラスの先生が熱を入れてレッス
 ンをする。カベをへだてた裏の部屋から大声で

有名な支部長会の方々のレッスン、これ
 では聖徳太子の様に聞き分けることが出
 来る人なら、三つのレッスンを受けられ
 る状態。でも、クラスの人々は、それぞ
 れに真剣に講義を受けています。長い間
 の間借り生活もあと少しで終わります
 ね。立派な教会堂が献堂されれば、集會
 所の問題は一挙に解決されます。かえっ
 て、その時に起こって来るであろう種々
 の問題について役員教師の方々は今から
 考えて下さい。何百人もの人を迎え
 たMIAの運営も大きな一つの問題で

す。現在の副会長織本兄弟が若い為に前YM
 ・MIA会長森村兄弟（現在支部長会会計書
 記）がMメン・グリーナーの級を持たれてい
 る様ですが、全体としてととのったMIAの
 組織を持っていると思います。今後も、多く
 の人々の参加の、モットーを充分生かして団
 結したMIAを作ってください。 佐藤栄子記

京都支部

北村 泰子 十八才

住所 京都市北区紫野上柏野町五八

趣味 読書・切手収集・写真・音楽

永野 千郷 十八才

住所 滋賀県彦根市地蔵町四九七

趣味 スポーツ（特にソフト・ボール）
 切手収集・旅行・絵画・音楽

尚、今春日本体育大学短期部合格

長棟富美子 十八才

住所 京都市右京区山ノ内宮前町七ノ二

趣味 音楽

特技 英語

尚、今春京都女子短期大学英文科合格

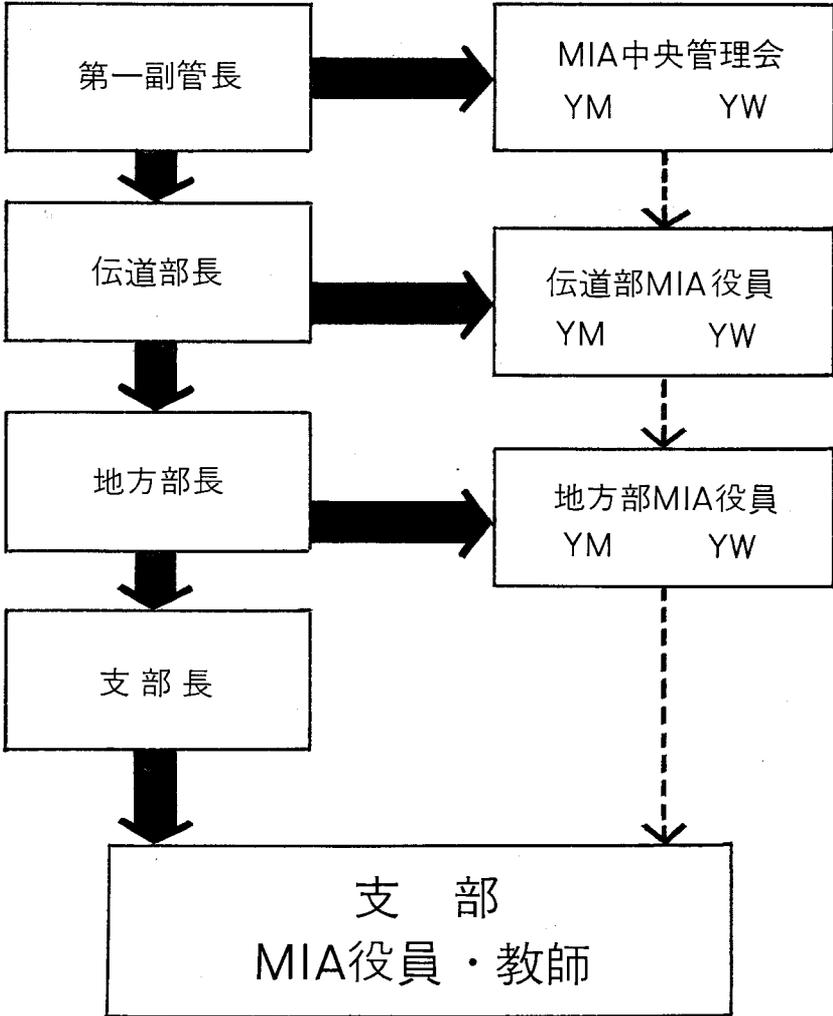


あなたと文通を

伝道部MIAの組織と管理活動の系統

MIAの組織と管理系統

MIAでの活動系統





ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

教会員でいらっしやる姉妹のみなさま。このすばらしい国において主イエス・キリストのみわざを一層進めるために、どのような方法でもあなたがたと共に働きあなたがたに奉仕ができるのはほんとうに私の感謝であります。主が極東の島々に主の王国をもっと強くもつとしっかりと立てようとしていらっしやるとき、私たちの教会はあなたがたの援助と力とをこれからさきの何週間も何ヶ月間も、また何年という長い年月にわたっても必要といたします。昔から、忠実なそして勇気のある婦人たちの生活は、主のみわざを進めるに当りひじょうな力になっています。婦人たちは世のつづくかぎりいつも力と信仰と靈感の源になるにちがいありません。私はいま、私たちの教会の初期に、扶助協会のプログラムにひじょうに忠実であった人々の一人であるルシイ・マック・スミスのけいけんしたことを思っています。

千八百三十二年、教会がひじょうな艱難に逢っていたとき、ジョセフ・スミスはカートランドからミズーリへ行かなければならないと思いました。そしてカートランドを出発する前に、レイモンド・カフーンに指示して、集会のためにも学校のためにも使う家を一軒建て始めるようにと言いました。ルシイはその著書の中で自分が出たことを物語っています。

「私たちは今や、兄弟たちのために私たちの信仰を一つにして共に祈りをささげるため、できるだけ度々集まりたいとひじょうに熱心に望んでいた。しかし、兄弟たちが出発してから長い間というのは、大部分の集りはあらしのために中断されていた。このために、また冬が近づいて来たためにも、私たちは急いで家を建てなければならぬとカフーン兄弟に催そくし始めた。しかし、カフーン兄弟は、時間も金もないからこのことはどうにもしようがないと言った。……とうとう私は夫にむかって、私は家を完成するために自分でお金を募る自信があります。もしもよいと言って下さるなら、どれほどできるかやってみたいと思います。……私はそこで寄附申込書をつくり、その中にもっとこの寄附金が寄附の目的にそって使われないような場合には、全額を返却いたしますと誌した。……それで私はつづけてお金を集め職人を雇って、とうとうその家は扉のかんぬぎにいたるまで全部完成した。そして完成を見たとき未払いの金はたった六ドルであったが、これは後に私の夫が農産物を売って皆済しましたのであった。」

姉妹のみなさま、これは私たちすべてにとって一つの教訓ではないでしょうか。

それからちょうど百年あとに、アメリカ合衆国テキサス州に起こった信仰と献身のお話がもう一つあります。

「モルモン」の宣教師たちが彼女の家を訪問したときにエマ・リー・ベルトランはひじょうに難儀をしていた。アメリカは不景気の最中であつた。彼女の夫は病氣であつた。そして彼女は部屋を貸してわずかなお金を得、それでくらししていたのであつた。モルモン」の宣教師たちはその一室を借りた。もちろん彼女は千九百三十二年に教会に入つて、夫の死後教会の日曜学校の先生になつた。そして教会の諸集會は彼女の家で開かれていた。このベルトランおばさんが教會員になつて三年ほどたったころ、彼女はもう一人の支部會員ジエシー・ジルクリースト姉妹と世間話をしていたが、思えばこれが歴史的事件の発端となつたのである。それはこのように進行して行つた。……「私たちがいつかきれいな集りの場所をもつように、建築資金を集め始めようとしてゐるの」、ベルトランおばさんはそう言つて自分のポケットから五十セント玉を一つひっぱり出した。そして「これで始めるつもりなのよ」とつけたした。そのころ不景氣はどんぞこであつて、五十セント玉一つといえどもひじょうなぎせいであつた。

それをきいてジルクリースト姉妹は自分のさいふをさぐつた。そして銅貨、ニッケル貨とりまぜて五十一セントをとり出した。彼女はニコリして言つた「これで法定の利子だけいただければいいわ」。二人の婦人はこころからほがらかに笑つた。そして、建築資金募集というゲームをつづけて行くことと決心した。

建築資金はほかの人たちが寄附をするにゝれて、年がたつと共に大きな金額にふくれあがつた。そしてとうとう、主に献堂された美

しい集會場が新しく完成したのであつた。この集會場の献堂式が行行なわれて間もなく、この建物の中で最初の葬儀が行なわれた。それはベルトランおばさんの葬儀であつた。その日ある人が「もしも彼女の記念碑が見たいなら、まわりを見よ」と言つたとしたら至言であつたらう。しかしベルトランおばさんは、ほかの人たちに彼女のぎせいを思い出させるために、木や石や金属でつくつた集會場より以上のものをもつていた。彼女の子孫は現在六十二人生存している。その中のある者はあの美しい建物の中の集りに出席し、そのほかの者はほかの支部の指導者となつて働いている」。

これもまた、私たちがおぼえてゐるねうちのある一つの教訓ではございませんか。

ある日キリストが神殿のなかで教えていらつしゃいました。すると人々がキリストに「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」と質問しました。それに対してキリストは「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ。第一のいましめはこれである。自分を愛するようになあなたとなり人を愛せよ、第二はこれである。これより大事ないましめはほかにない」とお答えになりました(マルコによる福音書十二〇三十一—三十一参照)。

キリストはこの人々との話をきりあげて「さいせん箱にむかつてすわり、群集がその箱に金をなげ入れるのを見て」おいでになりました(マルコによる福音書十二〇四十一参照)。人々がそのささげものをもつて入ってくるのを見てゐるのは興味のあることでありました。ある人たちは金持ちであつてたくさんもつておりました。こ

の人たちが、たくさんのお金を入れたらいい、ということでもありません。この人たちが、それをいろいろのラッパ形の中へ入れるときにそれは大きな音をたてました。金持ちの中にはこれを楽しんでいる人もありました。それは、人々に自分がたくさんのお金を寄附したことが知れるよう、人々の注意と興味をよびおこしたいと思っていたからであります。

キリストが見ておいてになりますと、「ひとりの貧しいやもめがきて、レプタ二つを入れた。それは一コドラント(二円くらい)にあたる」(マルコによる福音書十二〇四十二参照)。それはやもめの全財産でありましたから、キリストはこの行いのために、そのやもめを愛してお弟子たちをよびよせお言いになりました「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはさいせん箱になげ入れた人たちの中で、だれよりもたくさん入れたのだ。みんなのものはありあまる中からなげ入れたが、あの婦人はその乏しい中から、あらゆる持ち物その生活費全部を入れたからである」と(マルコによる福音書十二〇四十三)。その通り、ほかの人たちはたくさんもっていました。しかし、この貧しいやもめは持っているものを全部入れたので、だれよりもたくさん入れたのであります。

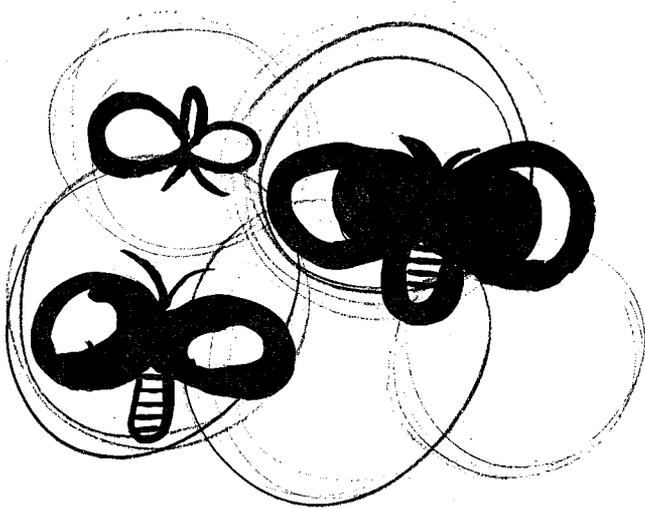
またここにぎせいを教えるもう一つの教訓がございます！

主は、極東の教会員たちにその持ち物を全部ささげよとっておいでになりませんが、主の王国をここにたてるためにあなたがたが大きなぎせいを払うのは当然であるとおいでになります。教会員の多くは、日本と沖繩に建物や文字通り建てたために、今までのところ大きなぎせいを払っておりません。私は教会の姉妹たち

に、このたいせつな仕事のために信仰とぎせいの模範を示して下さい、このたいせつな仕事のために信仰とぎせいの模範を示して下さい。たしかにあなたがたがた姉妹は、これまで勤勞奉仕の宣教師たちに食べものや衣類をつくったりして助けて下さいますから、これに対して私たちはたいへん感謝しております。しかし、これからさきたくさん為さなくてはならぬことがあります。時間や労力はもちろんお金も必要であります。どうか、一人一人の姉妹よ、毎月建築資金の中へ定期的に寄附を行ない、それによってあなたのまわりの人々におなじことをするようにはげましを与えて下さいませんか。今よりもっと早い速度でこの仕事はかどるようになり、あなたの支部の支部長さんにあなたのできることをきいて下さい。

私はこのほかに一つ提案したいと想っていることがあります。私たちは日本と沖繩へ来てみて、そこに住む人々が大へん贈りものをする人々であることに気がつきました。日本や沖繩の人たちは、その友だちとくに宣教師たちにたくさん食べもの、服飾品、人形などを惜しみなく贈ります。これをするかわりに、あなたがたは贈りものに使おうと思っている同じ額のお金を、建築資金か建築資金計画を支えるために寄附をして、主とここに行なわれている主のみわざのためにお金を出すことを実行してみるがよいではありませんか。

アメリカでもほかの国々でも、教会の会員は贈りものをするかわりに初等協会児童のための病院を建てる基金に寄附をしています。教会の会員たちは、その友だちにハガキを出したり、口で言ったりして、個人的贈りものをするかわりにこの病院の基金に寄附をさ



母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯 (七)

第十五章 ジョセフ・スミス(二代目)熱の

あるはれものに苦しむ(つずき)

そのおも立った外科医はちよつとことばを交してから、ジョセフを寝台にしっかりと縛りつけるために紐をもつてくるように命じました。しかし、ジョセフはこれに反対しました。しかし、その医者
がジョセフにむかつて君は寝台にしっかりと縛られなくてはならない、とつよく言うのと、これを聞いてジョセフはきつぱりと言いました。「先生私はどうしても縛られませんが、自由になっているならずっとよく手術に堪えることができるからです」と。「それなら、ブランドーを少々飲まないかい」とストーン先生が言いました。「いいえ、一滴も飲みません」とジョセフが答えますと、これに対して先生が「葡萄酒を少々飲まないかい。何か飲まなくてはいかんよ。さもないとこれから受けなくてはならないひどい手術に堪えることができないよ」と言いかえすと、ジョセフは大きな声で言いました。「いやですお酒は一滴も口にしません。また寝台にしっかりと縛られもしません。しかし、私のこれからすることを言います。私はお父さんに、寝台の上ですわって私をだきかかえていてもらいます。それから骨をとつてもらうために必要なことは何でもします」と。次に、ジョセフは私の顔を見て言いました「お母さんはこの部屋を出て行って下さい。私が大へん苦しむのを見ることはお母さんにたまらないことを知っているからです。お父さんは堪えることができますが、お母さんは私をあんなにたくさん支えていて、あんなに長い間看護して下さったから、ほとんど疲れきっています」と。それから私の顔をじっと見上げ両眼に涙をいっばいたためて言い

ました。「ではお母さん、ここに居ないと約束して下さいね。主はきつと助けて下さいますから私は手術を首尾よく切りぬけます」と私はこのねがいをきき入れ、数枚のたんだシートをもつてきてこれをジョセフの足の下にしき、部屋を出て声がかきこえないように数百メートルなれたところへ行きました。

外科医たちは最初わるくなった骨の片側に穴をあけ、次にほかの側にも穴をあけて手術を始めました。穴をあけ終ると鉗子を使って骨を折りとりました。このようにして大きな骨片がとり去られました。外科医たちが最初の骨片を折ったときにジョセフが大きな声で悲鳴をあげましたから、私はこらえきれずにジョセフのところへ走ってゆきました。私が部屋へ入るとジョセフは「お母さん、帰って下さい、帰って下さい。入ってきてはいけません。出て行って下さるなら辛抱し通してみます……」と言いました。

私はすぐに部屋からおし出されて手術が終るまで留めて置かれませんでした。しかし処置がすつかりすんでジョセフが清潔な寝台に横たわり、部屋の中にすこしも血の様子がないように掃除され手術に使った器具をとりかたつけると私は再び部屋に入ることをゆるされしました。

ジョセフは手術後すぐに体のかげんがよくなり始め、それからずつと快方にむかってとうとう強壯な体になりました。ジョセフは旅行ができるほど健康が回復したとき、海のそよ風が健康のためになることを期待して、療養のために叔父のジェス・スミスと一しよにサレムへ行きましたが、この期待はジョセフにそむきませんでした。

このようにして約一年の間、病氣と心痛の苦しい経験を味わって

から、健康が再び一家にかえってきました。そして、私たちはつくづく健康の祝福を実感したのでありました。またほんとうに、このような恐ろしいなやみがあったにもかかわらず私たちの命を保たせていただいたのは、この間に病氣も知らず貧乏も味わなかつたよりもひときわのおめぐみである神の御手に感謝をささげる気持ちになつたのです。

第十六章 ジョセフ・スミス(初代)パルマイラへ

移る。さばきについて靈夢を見たこと。

私たち一家によりやく健康がかえってきたとき、当然人が想像するように、私たちは貧乏になってしまっていました、私たちは以前に計画をしていたように将来のそなえをすどころか、まず今日、必要なものを手に入れるために全力をあげて働らかななくてはなりません。

私たち一家がみな健康になつてまもなく、私たちは一家をあげてヴァーモント州のノルウィッチへ移りました。

註。スミス家の九人目の子供ドン・カルロスは千八百十七年三月十五日、ヴァーモント州ノルウィッチで生れた。

ここで私たちは、モルドックという人のもっている農場におちつくことになりました。その第一年目は大へんな不作でありましたがそれでも、そこにあつた木になつた果物を売つてよりやく家族の者が食べるパンを手に入れることができました。また、ひじょうな努力をしてやつと私たち自身を支えてゆくことができました。

二年目になりましたが、これも一年目と同様完全な失敗に終りました。しかし、私の夫はもう一度うえつけをしてみて、それがこの

二年間の結果とおなじように失敗であったなら、小表が豊かにみのるニューヨーク州へ行こうと決心をしました。

しかし、その年も時ならぬ霜のために収獲がなくなってしまうから、私たちはほとんど飢え死をしそうになりました。もうこれだけっこうでした。私の夫は結局ニューヨーク行きを決定しました。ところがある日、私の夫はひじょうに考えこんだ様子で家へ入ってくると腰をかけた。そして、しばらくだまって考えてから、今直面している事をまとめることができたなら、パルマイラへ行こうとしているハワード氏と一しょにニューヨークへすぐにでも喜んで出発するのだがなあと言いました。そしてさらに、今の家族の状態では自分だけ離れることはできないし、その上まず払っておかねばならない借金があるから、さっぱりした気持ちでここを出ることができないのだと言いました。

これを聞いて私は、これは私の考えなのですが、あなた、あなたのお金を貸している人とあなたがお金を借りている人の両方に来てもらって、みんなの人々に満足が行くように両方の間で事をまとめたらいではないでしょうか。また家族のことについては、あなたが私たちを迎える用意ができましたらすぐにあとからまいることができますよう、必要な準備は私になんでもできると思いますが、と言いました。そこで、私の夫はすこしでも取引のある人にみな集ってもらい清算をいたしました。ところが、この人々の中に清算をするときにその帳簿をもつてくるのをなまけた人たちがありましたので、この人たちは清算をすることができませんでした。または清算を示すための記入をすることができませんでした。しかし、この

場にのぞんで私の夫はこのことを証明するよう数人の証人に来てもらいました。

夫はこのように事務を整理しましたので、ハワード氏と一しょにパルマイラをさして出発しました。

註。スミス氏（初代）がパルマイラへ出発したのは千八百十六年の夏と思われる。

夫がかけたあと、私と大きな子供たちとは熱心に努力して働きた、夫から声がかかればいつ何時でも出立のできるよう十分用意ができたと思えるほど万事をととのえました。まもなく私は夫から、パルマイラへむけていつでも出かけられる用意をせよという知らせを受けとりました。それからすぐに、車をひくための一組の牛が私たちのために送られてきました。こうして、私たちが旅立とうとしているとき、さきに清算をしたときに帳簿を出さなかった数人の方がその帳簿をもつてまいりまして、もうすっかり清算がすんでいてあの証人たちの面前で棒ひきにすることを同意した勘定を今払ってもらいたいと主張しました。私たちはこのときすっかり旅の支度がととのって、出発を待っている一組の牛は経費をかけて借りてあるのです。このような事情のもとで、私は訴訟の危険をおかすよりも、この人たちの不当な請求に対して金を払った方が自分たちに利益であろうと結論しました。それで百方手をつくしたすえ百五十ドルという要求額を払ってきれいに勘定をすませました。当時ハノーバーに住んでいた金持ちの開拓者であるフラッグという方と、ノルウィッチに住んでいたハワード氏という方とは、二人とも今私が話しました事情をよく知っておられました。そして二人はこのことをひじょうに憤慨して、二人に証人をよびよせる充分な時間を下さい

そうしたら私をべてんにかけてとりあげたお金をまたとり返すために骨を折ってあげると言っておきました。しかし、私はこの二人に、夫がすでに金を払って車をひくための牛を一組送ってきたこと、お金をとり返さずと言ってもきつとそうなるとはかぎらないこと、万一訴えに負けたら、これから行くところとしてある所へ家族をつけて行くに必要なお金を調達することはできないにちがいないことなどを話しました。そこで、この二人は「この件については私たち同様ほかの人々も憤慨していることをよく知っている。ついでにはあなたに義損金をのつてさしあげたい。あなたが承知して下さるなら相当のおくりものをする事ができるでしょう」と言ってお金をのつて下さりました。このようにして人に助けを受けるという考えは思っても不愉快でしたから、私はこの人々の申出をことわったのであります。私たちとしばらく一しよにくらしていました私の老母は、この時旅の支度を手つだててくれました。そしてロイヤルトンまで一しよについて来て、亡くなるまでそこに住んでいました。亡くなったのはそれから二年あとでしたが、私たちと旅をしているときに馬車の中でひっくりかえってけがをしたのがもとで亡くなったのであります。

ロイヤルトンへ着くと私は年とつた母と本当につらい別れをしなくてはなりません。私はその時のことを思い出すと、いつもとくべつな感じにうたれるのであります。別れる時がまいりますと母は私のことを思つて長い間さめざめと泣いておりました。そして、これが多分お前との最後のおわかれになるだろう、二度とお前の顔は見えないだろう、「しかしね。私もずいぶん長生きをした

よ。もう長いことはあるまい。もうすぐにこの世のものをあの世のもの、取りかえつこしなけれやならない。私はあの世へ行つたらめぐまれた人々の仲間へ入つてくらしたい。ところで最後に言っておきたいことがあるがね。おねがいだから、お前は一生涯変らずに神さまに忠実に仕えて送つておくれ。それは次のもつとよい別の世でお前と一しよになつてくらすためだよ」と言いました。

私たちは宿屋のあるじをしているウィラード・ピヤスという人のところでお別れをしました。私の母はここからダニエル・マックスのところへ行つて死ぬまでそこで暮しました。

そこから少し行くうちに、私は、私たちの曳車用の牛を指揮しているハワードという人が、私たちの荷物や金をとりあつかうときも、私たちの子供とくにジョセフに対しても非道冷酷な悪い人であることがわかりました。彼はジョセフがまだ足がわるくてちんばをひいているにもかかわらず、何マイルも何マイルも徒歩で行かせました。私たちは彼の虐待をじつとこらえて、ユティカの西三十キロほどのところまでまいりましたが、ある朝私たちが旅をつづけて行くこうとしているとき、長男が私のところへ来て言いました。「お母さん。ハワードさんが荷物をみんなほうり出して、牛をつれて行ってしまふよ」。これを耳にすると、すぐに私は長男に言いつけてハワード氏に来てもらいました。私はハワード氏と、男女大勢の旅行者が居あわせた酒場の中で会いました。そこで私は、どうしてこういうことをするんですかと彼の返答をもとめました。すると、もらった金はみんな使つてしまったのでこの上一步も行けないからだという返事でした。これを聞いて私は、居あわせた人々の方を向いて言いました「ここにいらつしやる皆さん。しばらく耳をお借しねが

います。さて、天に神がましますように確かに、あの一組の牛も荷物もみな私の夫に属するものです。それなのにこの人はそれらを、いや少くともあの一組の牛を私たちからとって行こうとしています。あとにのこされた私と八人の子供たちは、これから旅をつづけ何の手段もなくなってしまうのです」と。そう言っておいて私は、ハワード氏の方へ向きなおって「あなた、わたしはあの牛に指一本さわらせないよ。一足でも牛を追い立てさせないよ。お前さんに用はない、行っておしまい。あの牛どもは私が世話をして車をひかせる。これからあとと自分で自分のことを立派にしてみせるから」と申しわたしました。私は自分の言ったとおりにして旅をつづけて行きました。それからほどなく私たちは、わずかな家財とたった二セントの現金をもってパルマイラへ着いたのであります。

私が夫とパルマイラで再会したときに、私たちはひじょうに貧乏になってしまっていました。それは私たちがなまけたからではなくて、私たちの生涯にもあまりないほどの不運に見まわれたからであります。私は、数々の不幸にもまた私たちをとりまく艱難にもまけずに、また夫と一しよに暮らすことができて、私も子供たちも共に連れ合いである優しい夫の疵護と愛情につつまれていることのできるのをほんとうにしあわせであると思いました。

私たちはみな一しよに集って、この貧乏な状態をきりぬける最もよい方法について相談をしました。その結果、私たちはみんなで力を合わせて土地を手に入れるために努力をしようとして結論しました。

私はそれまでに、テーブルや台などにかける油布の覆いに絵をかくことに相当年費を入れたことがあるので、その商売を始めて大へんはやりました。私は家族のために食料を全部まかなうことができた。

した。その上に、まもなく私一人の力で家の中の諸道具をふやし始めました。

また私の夫と息子たちは、夫が土地の管理人と契約をした百エーカーの広さの土地の代金を支払うために働きはじめました。

註。 スミス一家は、千八百十八年の春か夏かのうちに土地を買入れて自分の農場におちついたと思われる。その土地の購入価格または支払条件等については、これまで知られていない。

そして一年のうちに第一回目の支払いを大部分すませて、一軒の丸太造りの家をたて、土地のかいこんを始めました。そして、第一年目には三十エーカーほどの土地がいつでも植つけの出来るようになったと思います。

さて、私はここで本筋から少々はずれて、このころ私の夫が見たいへん珍らしい夢のことをお話ししたいと思います。私の夫は前にもこのような珍らしい夢を見たことがあるのです。それは次のような夢でした。夫のことによると、

「私は夢を見た。その夢の中で私はあるいて旅をしていたんだが、私はひじょうに病気であつた上にびっこをひいていたから、ほとんどあるくことができなかつた。私のそばには、いつもよりに案内して下さる御方がついておいでになつたが、一しよにしばらく行くと私はひどくびっこをひくようになって、もはや一歩も進めなくなつた。それで私はこのことを案内して下さる御方にお知らせして、これからどうしたらよいかをうかがつた。すると、その御方はもうすこし歩くと或る庭のところへくるからそれまで歩けとお言ひになつた。それで私は立ち上つてその庭を目ざして歩きはじめた。そして歩きながら私は、そこへ行くにはどう行つたらよいかを案内

の御方にたずねた。するとその御方は「このままずっと行け、そうするとひじょうに大きな門のところへ出る。その門を開けて見よ、そうするとお前が見たこともないほど美しい花が咲き乱れている庭が目に入るであろう。お前はそこで癒されるのだ」とおっしゃった。それで、私はなんぎをしてびっこをひきひきしようやく門のところへたどりついた。そして門を入って行くところに言った庭が目に入ったが、その美しさは何にもたとえようのないほどの美しさであって、あらゆる種類の優美な花があらゆる色を見せて満ち充ちていた。そして庭の中には約三呎半くらいの歩道があり両側は大理石で仕切っていた。その歩道のうちの一つは門のところから庭の中心を通って先の方までつづいていた。そしてこの歩道の右側と左側とはひじょうに立派な彫刻を施こした腰かけがあつて、その腰かけの一つ一つに六つの木像が置いてあつた。その木像の各々はひじょうに大きな木像であつたが、私が始め右側の木像のところへくると、それは立ち上つて私にうやうやしくおじぎをした。それから私が左側に腰をかけている木像の方を向くと、それはささぎの木像とおなじように立ち上つて私にうやうやしくおじぎをした。私はこのようにして始め右から次に左へと次々にふりむくと、十二体の木像はみなおなじように私におじぎをした。そうしたら私の病気がすっかりなおってしまった。そこで私は不思議に思つてこのわけを私を案内して下さつた御方にうかがつたが、残念なことにその返事を聞かぬうちに目がさめた」というわけであります。

さて私は農場の問題の方へ話題を転ずることにいたしました。第二回目の支払期日がせまつてまいりましたとき、アルヴィンはこの金を調達するために家を出て行きましたが、ひじょうに難儀をし

た末疲れきつて帰つてきました。しかし、必要な金だけは持つてきましたので、二回目の支払いを無事にすませることができて安心をいたしました。これで私たちがなやんでいた唯一一つのことです。で私たちは重荷をおろした思いをしました。今や私たちはちゃんとした家具をそなえた住みごちのよい丸太造りの家と、安楽に暮して行ける財産とを持つていたからであります。私たちがほとんど一文なしで誰一人知り人のないこのパルマイラへ入つてきたのは、今からたつた二年前のことでありました。

今は近所となりの人々ともみな立派につき合つて行けるようになりましたので、私たちは「かぎりなくつづく神のみめぐみ」をこの底から讃めたたえました。私たちには、このように物質的のおめぐみがあつたばかりでなく、また霊のおめぐみも豊かに与えられました。聖書の中に言つてある「汝らの老人は靈夢を見るべし」ということは、私の夫の場合事実となつてあらわれました。それは、このころ私の夫がもう一つの示現を与えられたからであります。読者のみなさまに注意をおしつけるようで相すみませんが、私の夫はなおもう一つの示現を与えられました。

私の夫はその上にもう二つ示現を受けました。それはたぶん何ほどか皆さまにとつて興味があると思いますが、一つ一つこまかいところまではっきり申上げることができるようは覚えて居りません。次に申し上げるのは第六番目の示現であります。

「私はひとりぼっちであると思つた。私は疲れきつていたが、それにもかかわらずなおつづいてあるいて行つた。思うに私は何か集りに行くためにあるいていようであつた。またそれは裁きの日であつて、私はさばかれるために行く途中であるようであつ

た。

その集会場が目に入ったとき、私は四方から大勢の人々が集ってきて、この大きな建物の入り口へ向かってひじょうに心配をして押しよせてくるのが見えた。しかし、私はそこへ間にあうように行けると思った、それでなにも急ぐ必要はなかった。しかし、その入り口へ着いてみると、入り口はしまっていた。私は入れて下さいと言つて戸を叩くと、なから門番の声があつて「あなたはおそすぎた」と言った。それで私はひじょうに困つて、入れてもらえるように熱心に祈つた。するとすぐに私は、私の肉体が枯れて行くのが見えた。それで私はひきつずき祈りをささげたが、私の肉が骨の上へ枯れしぼんで行くのはやまなかつた。それで私はほとんど絶望状態になろうとしたが、そのとき門番が私に、入れてもらうために必要なあらゆることを尽したかとたずねた。そこで私は、私のできるかぎりのことを尽したと言つた。すると門番は「それでは、正義は満足されねばならない。次に慈悲がその権利を主張することができる」と述べた。

そのとき私の胸に、御子イエスの御名によって神におねがいをするとということが浮んだ。そこで私は心に苦痛を覚えつつ声高く「お主人なる神よ、なにとぞ私の罪をおゆるしになるようイエス・キリストによってねがいたてまつる」と叫んだ。叫び終ると私はひじょうに力がついた感じがして苦痛がなおり始めた。すると、あの門番、または天使は私にむかつて、イエスは父なる御神の代言者でありました神と人との間にたつなかたちであられるから、イエスの救いを嘆願するのが必要であると言つた。

今や私はまったく健康になつて門の扉は開かれた。しかし私はそ

こへ入るとたんに目がさめたのであつた。

その翌年の春に、私たちはもう一軒の家を建てる準備を始めましたが、それは老後を養うためにもつと気持ちよく楽に住めるような家でありました。

(綴頁より)

せていただいておりますからよろしくと知らせています。あなたたちも、友だちや宣教師たちにこの方法を用いてみて下さい。ありませんか。もしあなたがたに贈りものをする気があつたら、あなたの支部の建築資金に寄附をして下さい。そして、その人や宣教師に私は建築資金に寄附をしてしまいました、それはあなたが彼らを愛しているためである、またはあなたの感謝をあらわすためであると言つてあげて下さい。主は、あなたがこれらほかの人々に助けを与えるよりも、主に対するあなたの助けを必要としていらつしやいます。そしてあなたがそれをするならば、それに対して祝福をなさるにちがひありません。そして、神の王国は、日本と沖繩にかならず成長を見るにちがひありません。

教員でいらつしやる姉妹のみなさま、私たちは模範にならうではありませんか。私たちはかがやく光にならうではありませんか。このすばらしい建築計画をさきに立つて実行することによって私たちの力と信仰とを示そうではありませんか。

扶助協会 レッスン

訪問教師のメッセージ

(北部極東伝道部 千九百六

十三年夏期用)

夏期用の「訪問教師のメッセージ」として「信仰の自覚」「証詞」

「宣教師のはたらき」「改宗の成

果」と題する四つのメッセージが

追加されます。以上四つのメッセ

ージの資料は大部分ドイツ、フラ

ンクフルト、ヨーロッパ伝道部長

のアルヴィン・R・ダイヤ伝道部長

の説教、報告およびそのほかの資

料から取材してコリス・ストラック

が編集したものであります。

以上四つのメッセージは「改宗

の連鎖」を示すものであって、そ

の全体にわたる目的は、一人の人

間が福音の求道者から改宗者へ、

改宗者から証詞をもった聖徒へ、

証詞をもった聖徒から福音をわか

ち与える末日聖徒へと進んで行く

様子を示すことであります。

一、「信仰の自覚」

私たちが「信仰の自覚」を理解

しなくてはならぬ理由。「信仰

の自覚」とは何のことですか。

二、「証詞」

証詞が末日聖徒にとってひじょうに大切である理由。

福音をわけ与えるときになぜ証

詞が大切ですか。

三、「宣教師のはたらき」

宣教師の目標は何ですか。

宣教師は、ほかの人々に「信仰

を自覚させる」力となるため

に、どのように自分の証詞を使

いますか。

ある宣教師が自分の目標を達成

するために使う「基本の鍵」と

は何々ですか。

宣教師は私たちの「紹介制度」

をどのように利用しますか。

四、「改宗の成果」

本日に改宗した末日聖徒が証詞

をもっているならば、自分のも

つている福音をほかの人々にわ

け与えたいと思います。

福音をわけ与えるならば、ほか

の人々のためになると同時に私

たちの証詞も強めます。

私たちが福音をわけ与えるに

は、またわけ与えなくてはなら

ないためにはいくつもの方法が

あります。すなわち、福音の

他人のことを心配する。福音の

原則を実行する。互いに強め合

う。家庭を開放する(福音のた

めに)。扶助協会で紹介し合う

集りをもつ。福音をわけ与える

家庭集会。息子や娘たちを将来

宣教師にするための準備をする

こと。

メッセージその一「信仰の自覚」

目的—ある人が福音を受け入れる

方法を理解すること。

千九百六十三年六月用

本日の末日聖徒になって自分自

身の救いと進歩を得るためにはた

らくには、私たちは真に信仰に目

ざめ、また「信仰の自覚」とは何

のことであるかを理解しなくては

なりません。私たちが「信仰を自

覚する」ときに何が起るかを知ら

ないなら、私たちは自分の将来

を永遠の中に築かなくてはならな

い基礎を知ることができないでし

ょう。私たちは「信仰の自覚」と

いう基礎をもたなくてはなりません

。私たちは「信仰の自覚」の力

を知ってその強さを利用しなくて

はなりません。

本日の末日聖徒であるために

は、私たちはいつもほかの非教会

員(男女ともに)に私たちのもつ

ている福音をわけ与えるために努

力しなくてはなりません。私たち

が、福音の「信仰の自覚」という

ことがその人たちにとってどんな

意味があるか理解しているなら

ば、そのときがはじめて福音をわ

け与えることができます。またもし

も「信仰の自覚」をすることが何

であるか知らないならば、ほかの

人たちに「信仰を自覚させる」力

になることはできません。

それならば「信仰の自覚」とは

何のことでしょうか。「信仰の自

覚」とは福音が真実であるという

ことがまったく疑いないという感

じと、確信と、霊の知覚と絶対の

固い信念とをもつことでありま

す。この感じと、この認知と、こ

の固い信念とは聖霊の力によって

私たちに与えられる啓示でありま

す。それはこここの中の温かさ

と平安と、私たちのまわりにある物

質的のものとは関係のない、聖霊

から与えられる満足感として与え

られるのである。それなら私

たちはこれをどうして受けること

ができますか。それは私たちが、

福音は真実であるかどうか知りた
いという強いねがいと必要とをも
って、福音が真実であることを知
りたいとげんそんなところでひざ
まずき「父なる神さま」にこころ
の底から祈り求めるときに与えら
れます。そしてその啓示が与えら
れるときには、それはあらゆる予
想や経験のおよばないものであり
ます。

私たちが、福音は真実であると
霊において知覚をするということ
は、神のみたまの教えたもうこと
をけんそんに私たちの霊に受けさ
せるということであります。ニコ
デマスは、イエスが多くの偉大な
奇蹟をあらわしたもうたので、ま
ことに神からつかわされた救い主
であると確信してイエスのところ
へやってきました。しかし主イエ
スは、しるしによって得たこのよ
うな確信は充分でないこと、人は
確信を得るために「霊によって生
まれ」なければならぬことを教え
ようとなさいました。するとニコ
デマスは博識な人であったのにこ
のことばが解らず、どうして「霊
によって生まれる」ことができよ
うかとイエスにたずねました。知
人間は時々このような「霊の知
覚」を真理の充分な「証拠」とし

て受け入れたがらないものであり
ます。その人々は「霊で認める」
とはあまりに非現実的である、そ
れは五官によってはいきなり解ら
ないことであるから何にもならな
いと言います。それは手でさわら
ない、目で見たり、科学の法則や公
式や人間の論理や私たちのもって
いる知識で調べたり説明したりす
ることのできるものではありません。
人々が、霊にかかわる深い問
題や宗教上の深い問題について、
満足かつ決定的な解答がほしいと
思っているのは当然であります。
しかし、このような解答を人間の
論理や教義の力やおもひだけによ
って得ようとするならば、それは
人に立場を理解させることにはな
るでしょうが、けつして改宗をさ
せることはできません。

キリストはかってペテロをまじ
えたお弟子たちのまんなかに立っ
ておいになりました。そして
「人々は私のことを誰であると言
っているか」とおたずねになりま
した。キリストについてはいろいろ
のことがたくさん言われておっ
て、ユダヤの村々、山々の中腹に
住んでいる人々、ガラリヤの岸辺
に住んでいる人々が口から口へさ
さやき語り合っていました。人々

は「この男は誰であるか」とたず
ねていました。キリストのお弟子
たちは、いまだずねられたので
「人々はあなたのことをバプテス
マのヨハネ、それでなければ予言
者の一人、またはエリヤだと言っ
ております」とこたえました。す
るとキリストはペテロにむかって
「あなたは私を誰であると言
うか」とおききになりました。これ
に対してペテロは「あなたはキリ
ストであります」とこたえまし
た。ペテロはその瞬間彼に与えら
れた「信仰の自覚」をもつたので
ありました。そのときキリストは
「信仰の自覚」を説明する標準と
なることばをお出しになりました
「血肉がこれをあなたにあらわし
たのではない」—すなわち人間の
論理や弁論や教義がこれをあらわ
したのではない「天にまします私
の父がこれをあらわされたのであ
る」と。

そこで、これこそ私たちが「信
仰の自覚」をもつときに私たちに
起こることでもあります。私たちは
どのような具体的ものより以上
にこのこととてかぎりなく真実
であり、このから信服すると
いう確信を受けるのであります。
このことをもつと充分に悟るため

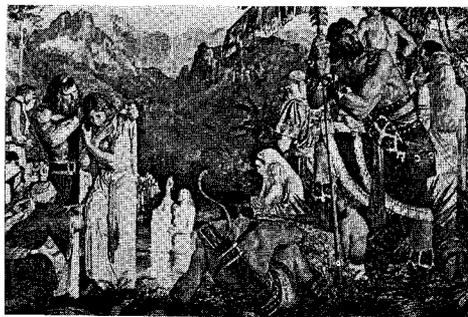
に、自分のもっている福音のあか
しを分析してみてごらん下さい。
また、イエスが神の御子であると
考えているわけを説明してみても
らん下さい。これらの知識は物理
的の論証によって与えられるもの
ではありませんから、物理的の論
証をすることはできません。私た
ちはどこから「私はイエスが神の
御子であることを知っている」と
いう知識を得るでしょうか。福音
は一種の主観的感情であります。
それを支配し左右するのは聖霊の
力であり、聖霊御自身はその賜
と霊の力を施す任務をもつて
おいになります。その霊の力が
「信仰の自覚」を与えるのであり
ますから、私たちのできることで
この力にかわるものは何一つあり
ません。

この「霊の知覚」は突然に起こ
るのであって、それによって人
の全生活がかわり、私たちの生存
に新しい目的と意味とが与えら
れ、私たちの毎日の行いが究極の
目標に到達する力となるのであり
ます。この「霊の知覚」を受ける
ときには、それ以外のものはこと
ごとく無意味となり、そのように
「霊の知覚」に最も重要な意味を
認めるようになった人は、神に関

する教義やいろいろなことを知り
たいと思ひ、また主が喜びたもう
ことを行ないたいと思ひ、なかな
ずくひじょうな喜びにみたされる
ので、その喜びはみちあふれてほ
かの人々にもわけ与えたいと思ふ
ようになるのであります。主は次
のようなことで、すなわち私たちが
自分自身の救いを得て、これをま
だ知っていない兄弟姉妹に知らせ
ることをのぞんでいらつしやいま
す。私たちは証詞を度々ほかの人
にのべることが大切であります。
もし私たちがこれをするならば、
聖霊は私たちのことが真実であ
ると証しをすることができます。
私たちはあらゆる手段をつくして
求めなくてはなりません。そして、
自分のことばを通してほかの人
々にあかしができるために、聖
霊の導きがあるようにいつも祈
り、聖霊のみちからに全くよら
るので、ほかの人々に自分のもつ
ている福音をわけ与えなくてはな
りません。

イエス・キリストの福音の中に
ある全要素は全くこの上にかかっ
ております。本当に改心をした人
々はその心の中にこの確信が生じ
ます。そして確信があるときには
あなたは力があり、力があるとき

にはぎせいははらうことができま
す。そして主があなたにさせたい
とお思ひになることを喜んでいた
します。「神のみことばを信じて、
心をかたくなせず、まことに
信ずるに先だつてみことばを知る
ようにしむけられることなく、あ
らばテスマを受けらるる者はさいわい
である」。



今月の表紙

アルマ、モルモン泉でバプテスマをほどこす。

参照聖句 モーサヤ書18章1節～21節

Seito no Michi no Hanashi wo honyaku shimashita

私の友人は信頼できる人です。彼は忠実に約束を守る人として知られて居ります。彼は自己の責務をよく果し最上に称讃されて居ります。けれども或夜私の友人は大切な約束の時間に姿を見せませんでした。彼は別に何も予定がなかったと言いました。私は彼が病気でなかった事を知って居ましたので失望しました。けれども次の日に私の友人は彼の欠席に就て説明しました。昨夜彼が家を出ようとした時隣人が彼を訪れました。その隣人は問題があって誰かに話す必要があったのです。私の友人は“約二時間に亘って私はじっと聞いただけですけれども私の隣人は幸福そうに帰って行ったのです”と言いました。

恐らく私の友人はこの二時間、聞くことによって集会に於ける以上によいことをしたのでしょう。何となれば私の友人はよい聞き手ですから、誰か他人の問題をよく聞いてやることは、親切の内でも最上の最も大切な役割をなすものであります。よい聞き手となることは大切な事であります。

病人を慰め世話したことに於て、やせた英国婦人フロレンス・ナイチンゲール以上の人は少いでしょう。大英帝国とその同盟国はロシアと戦って居りました。それはクリミア戦争と呼ばれました。負傷者は貧弱な病院施設(状態)と又痛みから苦しみました。多数の者がトルコのアジアからヨーロッパを分っているせまいボスポラス河を見下す病院の四哩のベットに横わったのである、そこには多くの開けばなしの下水溝があり勇士たちはその汚れた中に放置され血に染まったシャツその他が固い床の上であり、ベットのシーツはキャンヴァスで作られ、すべての場所が混乱していたのです。

そこにフロレンス・ナイチンゲールが来ました。彼女は兵士の妻たちの働らきを以てランドリーを組織しました。彼女は余分の炊事場を設け、看護卒、看護婦を訓練しました。或時は彼女は二十時間も連続で手術を援け後かたづけを指揮しました。彼女は病院の死亡率を45パーセントから5パーセントに減らしました。

これはすべての外に夜中に彼女は手にランプを持って静かにベットの間を歩き、男(勇士)たちが彼女に語る声に耳を傾けました。フロレンス・ナイチンゲールは病院手当の偉大な改革者であります。けれどもすべての働らきを通じ彼女はランプを持った婦人として最もよく覚えられています。

何となれば彼女は聞いて病人に希望をもたらしただからであります。

すべての人が不幸な時を持って居ります。こわれた玩具を持った子供、借金に苦しむ男娘に失望する婦人、死に悲しむ家族、この人たちがすべての為^にに耳を傾け、忍耐強く理解を以て聞いてあげることは屢々大きな援けとなります。よく聞くことを学ぶことは最大なる芸術を習得することです。ハーバートの教授、チャールス、タウンSEND、コーブランドによって与えられた聞く芸術の中に於ける教課に就て人々は告げて居ります。彼は或彼の学生たちを彼の家に招待しました。学生の一人が如何に学ぶべきかに就てたずねました。教授は彼の指を振って言いました。“我が教え子よ、聞きなさい”そして沈黙したそこで生徒は言った、“はい私は聞きます”教授は答えました。“それがすべてです。貴方が為さねばならないことは聞くことです”。

祈りは必ずしも私たちの望むように答えられないものです、或場合私たちは特定の祈りが遂に聞き届けられるかどうかいぶがります、けれども祈りからもたらされる最大の強さは誰かが聞いていることを知ることがあります。

(翌頁に続く)

Everyone has times when they are unhappy, child with a broken toy, a man troubled by *debt*, a woman disappointed in her daughter, a family, saddened by death. For them all, an ear that LISTENS *patiently* and *understandingly* is *often* a great help. To learn to LISTEN well, is to *master* the greatest of arts. They tell of a lesson in the art of LISTENING given by the late Charles Townsend Copeland, Harvard professor. He invited some of his students to his home, where one of the students *asked about* how to learn. The professor waved his finger and then said, "*LISTEN*, my boy." There was a *pause*, then the student said, "Well, I'm *listening*". The professor replied: "That's all you have to do is *LISTEN*". *Prayers* are not always answered as we would like. Sometimes we may *wonder* whether a particular prayer is answered at all. But one of the great *strengths* coming from prayer is to know that Someone is *LISTENING*. The gift of LISTENING is a *priceless* gift. There is nothing quite like it when a heart is low.

<i>Names and Things</i>	<i>Words</i>	<i>Phrases</i>	<i>Verbs</i>
	appointments	about to leave	LISTEN
Florence Nightingale	kindness (kind)	neglected heroes	listened
English	conditions	brought hope	listening
Crimean War	operations	directed clean-up	listener
Bosporus	debt	work	Reduce (reduced)
Europe	neighbor	walked quietly	OVERLOOK
Asia	roles	between	(overlooking)
Charles Townsend	numerous	asked about	MASTER
Copeland	disorder		UNDERSTAND
Harvard	extra .		(understandingly)
orderlies	often		PATIENT
	reformer		(patiently)
	pause		ADMIRE
	prayers		(admired)
	priceless		
	strength		
	happier		
	wonder		

Seito No, Michi — ENGLISH PLAN
THE STORY — “Gift of Listening”

MAY 2

My friend is a *dependable* man. He is known *faithfully* to meet his *appointments*, he does his tasks well and no man is *admired* more. But the other night my friend failed to appear at an important appointment. He said that he had nothing else scheduled, I knew that he was not ill and I was disappointed. But the next day, my friend explained his *absence*. As he was *about to leave* his home the night before, a *neighbor* called. The neighbor was troubled and needed to talk to someone. My friend said, “For about two hours, I did little more than *LISTEN*. But my neighbor seemed to go home a *happier* man.”

MAY 9

My friend probably did more good in those two hours of *LISTENING* than he could have done at the meeting, because, my friend is a good *LISTENER*. To listen well to someone else’s problems is *kindness* in one of its best and most important *roles*. It is important to be a good listener.

In *comforting* and *caring* for the sick, few have excelled as did a slender English woman named Florence Nightingale. In 1854 Britain and her allies were at war with Russia. It has been called the Crimean War. Wounded men suffered from poor hospital *conditions* as well as from pain. Many lay in four miles of beds in a hospital in Turkey *overlooking* the narrow Bosphorus which divides Europe from Asia. This place was called a hospital, but it was a dirty building where men came to die. There were *numerous* open sewers and for days *neglected heroes* lay in dirty, bloodstained shirts, others on the hard floors. Bed sheets were made of canvas and *disorder* was everywhere.

MAY 16

Then Florence Nightingale came. She organized a laundry, with soldiers’ wives doing the work. She set up *extra* kitchens and trained *orderlies* and nurses. Sometimes for 20 hours at a stretch she helped with *operations* and *directed clean-up work*. She *reduced* the hospital’s death rate from 45% to below 5%.

Besides all this, at night she *walked quietly between* the beds with a lamp in her hand and she *LISTENED* to the men as they talked to her. Florence Nightingale was a great *reformer* in hospital care, but of all her work, she is remembered most as the “LADY WITH THE LAMP”, because she *LISTENED* and *brought hope* to the sick men.

procedure as before, having them read sentences and phrases and sections. Read in Japanese as well as English.

3. Pronounce all of the practice words and phrases at the end of the story, asking them to give you a definition of these words in English, also asking for sentences to be made from the words.
4. Request the sentences from the story than were assigned last week and then proceed to ask questions about the story, eventually having the class ask one another questions.
5. Dictate short sections and sentences of the story that are most difficult, with emphasis on the underlined words and phrases.
6. If time remains, draw several of the pictures from last weeks lesson on the board as a means of initiating conversation.

(329頁より続く)

聞くことの賜はねぶみできない賜です。心が沈んだ時に聞くこと以上のものではありません。

名称と物事

単 語

フローレンス、ナイチンゲール	約	束
英 国	親	切
クリミア戦争	状	態
ボスボラス	手	術
ヨーロッパ	借	金
ア ジ ヤ	隣	人
チャールス、タウンSENDコー	役	割
ブランド	多	数
ハーヴァード	混	乱 (無秩序)
看 護 卒	余	分
	屢	々
	改 革	者
	休	止
	祈	り
	ねぶみできない	
	より幸福な	
	いぶかる	

also indicate, time, but indefinite time) usually come before the verb.

EXAMPLE: We *often* go to the park *in the morning*.

1. When the frequency word has two or more words (some times, in the morning) they come at the end of the sentence.
2. Though these frequency words are used to indicate "how often" they can be left out and the meaning of sentence does not change. They are used for emphasis.

S	FW	V	Cplacetime
She	often	goes	to the store		in the morning.
We		learn	English	here	every Thursday.
They	usually	listen	to the teacher	in class	everyday.
I	am	going	to the church		in the morning.

E. EXERCISE: These sentences are all taken from the story, have the class arrange them in the proper order.

1. are always not answered we as like would
2. listening priceless is gift a the of gift
3. Florence then Nightingale came.
4. everywhere canvas of was disorder sheets bed were made and
5. "happier man" seemed go to home my neighbor but a
6. Is like nothing quite there it low is heart a
7. day next friend my explained absence his the but
8. extra kitchens set-up she and trained and orderlies nurses.

3. SELECT several sentences from the story, mix them-up and write them on the board and request that the students prepare them for next week. Some of the longer sentences will be difficult and prove more of a challenge. Make sure they write the mixed up order down on paper.
4. Return to the story for the remainder of the time with emphasis on class reading and sentence construction. If the material for one of the previous weeks was not covered due to time, always return to those sections. Review of any of the sections is good practice.

MAY 30

1. This entire week should be spent in concentrating upon the story, the pronunciation charts in the January issue and a review of this weeks grammar points.
2. READ THE ENTIRE STORY FOR THE CLASS, using the same

2. *The Simple Present and WHO*

A. When we use WHO as the subject, we have to use the third person singular of the verb, though the answer A WHO question may be singular or plural in the first, second or third person. When a frequency word is used it precedes the verb.

B. Read the following examples for the class.

1. Who (often) sings these songs?

Mary (often) sings these songs.

2. Who taught this English class?

Miss Smith teaches this English class.

3. Who asked the last question?

The boy in front asked the question.

4. Who did the shopping yesterday?

I did the shopping yesterday.

C. There are several verbs listed, make questions with WHO in the simple present. Have the class both, make the sentences and answer them using frequency words and pronouns.

EXAMPLE: WHO (always) comes to English class?

Miss Smith (always) comes to English class.

1. listen 4. visit 7. run 10. teach

2. learn 5. understand 8. sing 11. live

3. go 6. patient 9. speak 12. answer

3. Request the MOTHER'S DAY themes, if there are few, again talk about Mother's Day using pictures with various members of the class using the words in last weeks lesson.

4. Spend the remainder of the time dictating a section of the story, and reading, with the class as the main participators. Assign next weeks section of the story to be read.

MAY 23

1. Follow the same procedure of reading the story for the class and assigning various sentences.

2. *PLACE AND TIME expressions*

A. Expressions that have place and definite time, usually come at the end of a sentence and a part of the compliment. If there is a direct compliment, they follow it.

B. When a time and a definite place expression come in the same sentence, the place comes before the time.

EXAMPLE: It is warm *here* today

C. Except in the case of the verb TO BE, frequency words (which

1. Do you read the story? 5. Does Carol read the newspaer ?
 2. Do YOU GET UP EARLY? 6. Do the boys play ball ?
 3. Do you like to study? 7. Does she do her school work ?
 4. Does Mary play the organ? 8. Do you go to the store ?
4. Below are lists of words to be assigned to the class. Construct a sentence from each list of words. You can make more if needed.

WORD ORDER

1. very here isn't warm it today
 2. Carol to Sundays church usually on goes
 3. get up Mary early always morning in the does?
 4. listen your please teacher to
 5. to going I'm now the store
 6. is a friend dependable my man
 7. was neighbor troubled the talk someone to and needed to
 8. good listener to important is it a be
5. List the following worde on the board
- | | | |
|-----------------|----------------|-----------|
| 1. MAY 12 | 3. CELEBRATION | 5. CARING |
| 2. MOTHER'S DAY | 4. HAPPIER | 6. HOME |

Make a sentence with each of these words and then tell a little about Mother's Day in America and why it is important, ask if there are any Japanese holidays and customs concerning PARENTS. Use pictures in you discussion and then request each student to write a few sentences for next week about MOTHER'S DAY using at least 4 of the above words.

6. Return to the story, using both the Japanese and the English, select-ing words for study and sentence construction.

MAY 16

1. Read the story for the class, re-reading the previous three weeks with emphasis on this weeks section. Chose various members of the class to read short phrases and sentences. Discuss the story and answer questions concerning words, pronounciation and meanings. Ask questions such as the following to activate class participation.
 1. What year did Britian fight Russia ?
 2. What was the name of the war between Russia and Britian ?
 3. What did Florence Nightingale do for the men in the hospitals ?
 4. Why was Florence Nightingale called the LADY WITH THE LAMP ?
 5. How was Florence Nightingale like my friend in the story ?
 6. What river did the hospital in Turkey OVER look ?

MAY 9

1. Read May 2nd and May 9th sections of the story, using the students to participate in reading both the English and the Japanese. Ask questions about these two sections such as 1. What did my friend do for his neighbor? 2. Who did Britain fight?
2. Have the students take pencil and paper and copy as you dictate (slowly) a section from the story. select two or three of the students to read their papers and correct.
3. *The Simple Present and how to use FREQUENCY WORDS-OFTEN USUALLY ALWAYS.*

- A. The simple present tense sometimes expresses HABIT (always), REPEATED ACTION (everyday), FREQUENCY (often) and GENERAL (sometimes) Often, everyday, sometimes, always, and usually are all frequency words and indicate an indefinite time.
- B. Except for the verb TO BE, these words usually precede the verb. EXAMPLES: Does she ALWAYS *play* the piano? Yes, she ALWAYS plays the piano. She *is* ALWAYS playing the piano.
- C. When two frequency words are used like EVERY DAY or SOME TIMES, they are usually at the end of the sentence.
EXAMPLE: I come to listen to the music EVERYDAY. He goes to work EVERYDAY.
- D. Repeat these sentences

Do you *usually* sleep late? No, I do not *usually* sleep late.
Does she *always* drink milk? Yes, She *always* drinks milk.
Do they *often* play games? Yes, they *often* play tennis every day.

AV	S	FW	MAIN V	C	
DO	YOU	USUALLY	SLEEP	LATE?	
DOES	SHE	ALWAYS	DRINK	MILK?	
	S	AV+N't	FW	MAIN V	C
	I	don't	usually	like	candy.

- E. EXERCISE: Read the questions to the class having them answer in the affirmative and then in the negative, using FREQUENCY WORDS, NOUNS, PRONOUNS AND NEGATIVE, CONTRACTIONS. (don't can't)

EXAMPLE: Do you talk English everyday?

Yes, *I always* speak English *everyday*.

No, *I don't* talk English *everyday*.

B. *EXERCISE* Repeat each of the following sentences. Then have the class repeat the sentences using the correct verb form for the subject indicated, 1. make a question with the first word and answer with the second word.

EXAMPLE: You close the door. SHE MARY

1. Did *she* close the door?

2. Yes, *Mary* closed tht door.

Yes, Mary closes the door.

1. I go to the store each day. MISS SMITH SHE

2. We say the new words. YOU I

3. You teach English. SHE THE TEACHER

4. I copy the sentences. JIM HE

5. I play baseball. He BOB

6. You sing songs. MARY SHE

7. They go to the park everyday. THE MAN HE

8. The teacher has a large English class. SHE MISS JONES

4. *WHEN and WHAT TIME used as INTERROGATIVE TERMS.*

A. *WHEN* and *WHAT TIME*... The answer to a *WHEN* question may be either a general time (yesterday) or a specific time (three o'clock).

B. The answer to *WHAT TIME* is always a specific time of day *in the morning at nine.*

When do you go to towm? I go in the morning.

When do you go shopping? I go in the afternoon.

What time do you go to school? I go to school at 8 o'clock.

What time do you go to bed? I go to bed at 9 o'clock.

C. *EXERCISE.* Make simple sentences with the interrogative words and the subjects listed.

EXAMPLE: *WHEN - MARY - SHE*

When *does* Mary go to school? She goes *in the morning.*

1. *WHAT TIME* — John — HE

2. *WHAT TIME* — the man — he

3. When — the teacher — she

4. When — the lady — she

5. When — Bill — he

6. When — you — I

7. What time — your aunt — she

8. What time — the students — they

5. Go back to the story for the remainder of the time, be sure to assign next weeks section of the story.

SEITO NO MICHI
ENGLISH PLAN - MAY

MAY

TO THE MISSIONARIES: It has been expressed that more *conversation material* is desired for English class, therefore, that is the attempt of this months plan. Please remember that we have but few pages, so the story must be employed as the main source of material. This months story has been translated leaving less space for other material, draw upon the story for 1) words 2) sentence construction 3) questions 4) conversation. The words of the story are not easy and the teacher will have to prepare with dictionary in hand. However, there is at least one grammar point for each week.

MAY 2

1. Review the sound charts from January's lesson plan, using the word lists as a source for sentence construction, write the sound charts on the board before class.
2. Read the entire story for the class and re-read the section for May 2.
3. *The Third person Singular of the Irregular Verb Form.*

A. The simple present tense of the third person singular ends in S, though some of the verb forms may be irregular in spelling and pronunciation. Write some of the following examples on the board and say them for the class.

close — she closes	sing — he sings	say — he says
go — he goes	write — he writes	
make — he makes	do — she does	
study — she studies	teach — she teaches	
have — she has		

- SAY, HAS, DOES, and GOES are irregular forms and must be memorized, there is no rule.
 - When we form the third person singular of verbs that end in Y, preceded by a consonant, we change the Y to I and add ES.
 - When we form the third person singular of verbs that end in CH, we add ES.
 - When we form the third person singular of verbs that end in SE, CE, we add S. In both of these cases the ES. sounds like IZ.
- ALSO SEE THE FEBRUARY PLAN, FEB. 7, section I and FEB. 14, section II.

